平成14年度

登別地域農村振興基本計画

平成15年3月

北海道登別市

目　　次

１．地域の情勢と診断 ---------- 1
(1) 地域の情勢 ---------- 1
①登別市の現況 ---------- 2
②人口の現状と動向 ---------- 6
③土地利用の現状と動向 ---------- 8
④産業の現状と動向 ---------- 9
⑤生活環境整備の現状と動向 ---------- 31
⑥社会組織と地域の運営の現状と動向 ---------- 38
⑦行財政の現状と動向 ---------- 42
⑧交流連携の現状と動向 ---------- 43
(2) 地域診断 ---------- 45

２．地域の将来像 ---------- 53
(1) 地域の将来の望ましい姿 ---------- 53
(2) 地域振興のテーマ ---------- 55
(3) 地域振興の目標 ---------- 59

３．地域振興対策基本方針 ---------- 61
(1) 将来像の実現のために必要な施策 ---------- 61
(2) 推進プログラム ---------- 66
(3) 住民参加の方針 ---------- 70
(4) その他の農村の振興に関連する事項 ---------- 78

４．構想概略図 ---------- 80

１．地域の情勢と診断

(1) 地域の情勢

農村振興基本計画

地　域　名　　登別地域
対象市町村　　登 別 市
作　成　者　　登 別 市

1．地域の情勢と診断

(1) 地域の情勢

①農村の現況

A．登別市の概況

【位置・地理・地形・交通】

登別市は北海道の中央南西部、胆振支庁管内のほぼ中央に位置し、東は白老町、西は室蘭市及び伊達市、北は壮瞥町にそれぞれ接している。市域は、東西18.5km、南北22.6kmに及び、総面積は212.11km²を有している。

図 1-1. 道 内 位 置 図

形状は、ほぼ菱形をしていて、東南部は太平洋に面し北部山地を源とする中小河川による沖積平野に続いて火山灰性土壌に覆われる高原状台地が広く展開している。

図1-2. 胆振支庁管内図

交通状況は、高速道路の北海道縦貫自動車道（札幌まで約１時間30分）、国道36号の他、９本の道道も合わせ幹線道路が網状に延びている。鉄道は、JR室蘭本線が国道36号に並行して走り、札幌まで特急で約１時間で結んでいる。

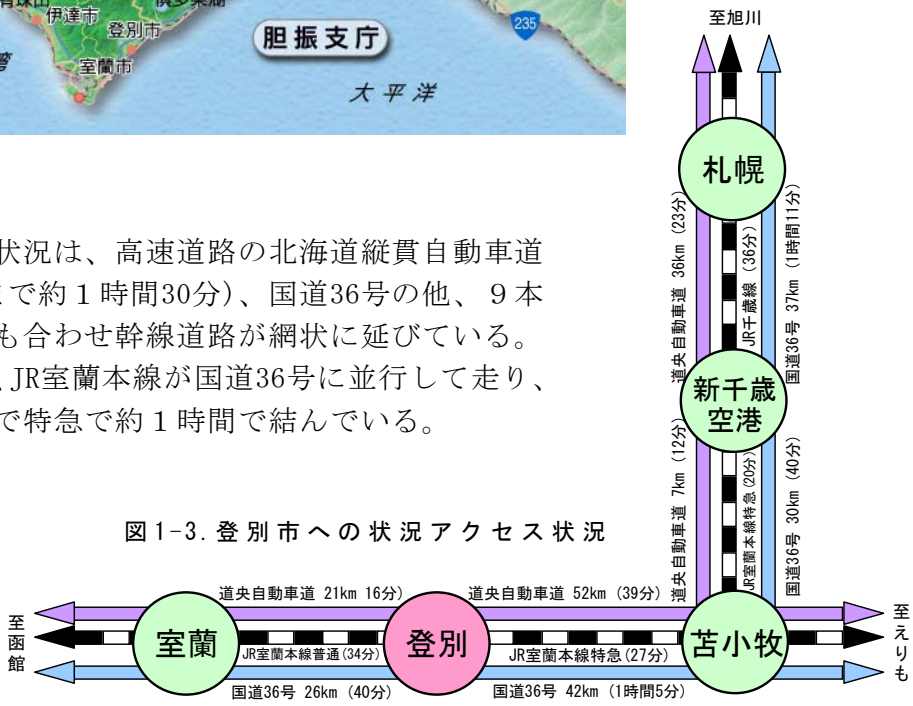


図 1-3. 登 別 市 へ の 状 況 ア ク セ ス 状 況

【気象・植生・土地利用】

当市の気候は、太平洋側西部気候に属し、海洋の影響により気温差が少なく、比較的温暖な気候となっている。一方で、６月から７月にかけて海洋性の霧が発生しやすく、７月から10月にかけて大雨が降りやすい胆振地方の代表的な集中豪雨地帯である。このため、稲作、畑作などの営農には不利な気象条件となっている。降雪は他地域に比べ少なく、平野部では最深積雪が１ｍを越えることはない。

植生については、海浜から高山まで地形的な変化に富み、河川が多く、湖沼等もみられることから、多様な植生が分布している。

市域の大部分を占める丘陵地においては、札内地区のようにその多くが牧草地となったところもあるが、それ以外にはカバ類、カエデ類、サクラ類等で構成された温帯性落葉広葉樹林が広く分布している。登別温泉周辺は、ミズナラ、イタヤカエデ、ウダイカンバ等が分布する原始林を構成しており、「天然記念物登別原始林」に指定されている。

市域を取り巻く山岳地帯では、高山帯の特徴的な植生の分布が見られる。オロフレ山では、イワヒゲ、コメウスユキソウ、アポイタヌキラン、ワシベツミヤマコウボウ等、周辺には見られない独自の植物種が分布している。これらの種は、それぞれ非常に貴重なものであり、量的にも乏しいことから鷲別岳山頂一帯は、北海道自然環境等保全条例に基づく「学術自然保護地区」に指定されている。

土地利用状況は、総面積は212.11km^{2}うち約69％が山林で占められており、市域の５％程度を占める農地は高台の札内地区を主体に分布し、酪農・畜産を主体とした農業が営まれている。

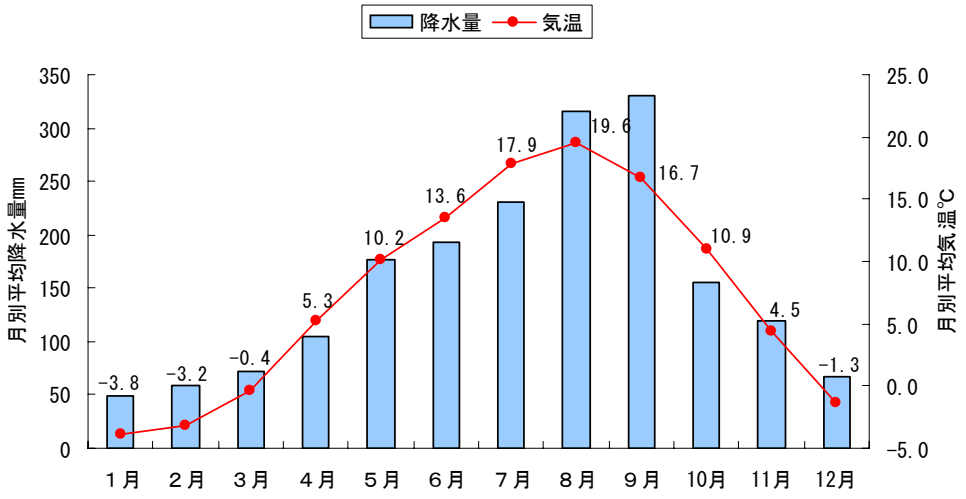


図1-4.H元～H12年の10年間の月別平均気温と降水量（北海道の気象）

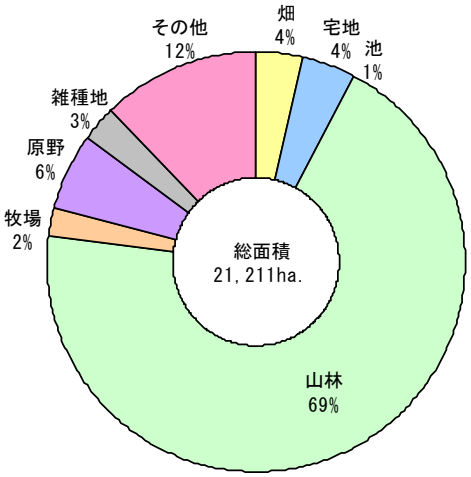


図1-5. 土地利用状況（登別市税務課）

B. 農村集落の状況

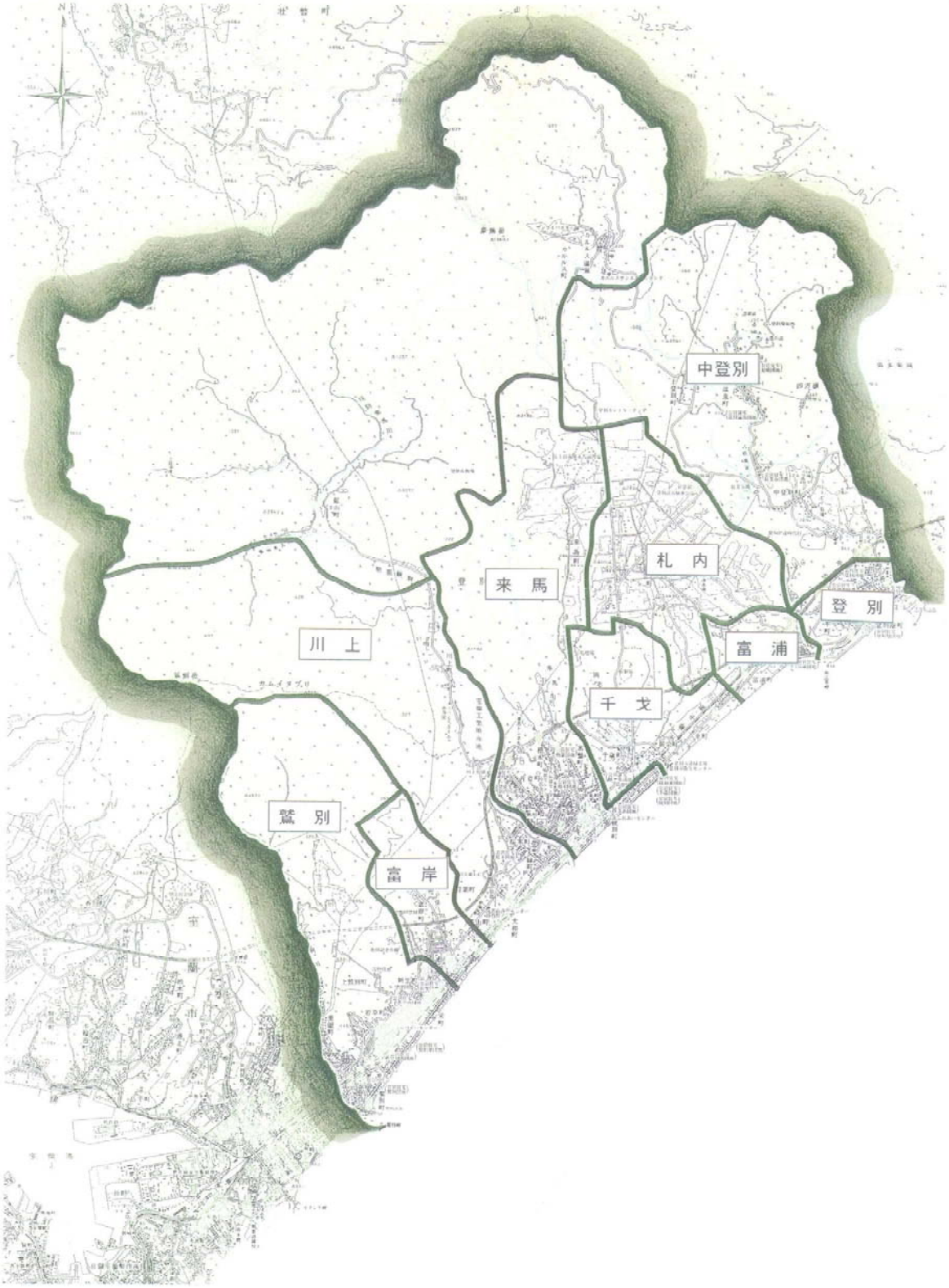
明治３年７月１日仙台藩片倉家移住団21戸が幌別・鷲別・富浦とともに来馬川の東西へ入植した。来馬は明治14年ごろからの集団移住で人口が急激に増加し開拓が進んだ。札内は、当時は屯田兵用地であったが、明治30年香川県人10数人が入植し開拓した。戦後、札内地区で緊急開拓入植がはじまり、天候及び土壌等の環境条件により酪農・畜産農業に特化し、比較的恵まれた条件下にあった平地部の農用地も、近年の市街地発展にともなって、離農等が相次ぎ、その生産基盤は、札内・来馬集落を主体にした丘陵地帯に移行した。また、経営内容も畑作農業から、酪農、肉牛を核とする有畜農業に転換し現在に至っている。

農家も札内・来馬を中心にこれらの集落に隣接する地域に集まっており、中登別、登別、富浦、千才、川上、富岸、鷲別に分布している。

項　　目	単位	総計	中登別	登別	富浦	札内	千戈	来馬	川上	富岸	鷲別
総農家	戸	85	8	2	1	32	9	18	8	5	2
販売農家	戸	76	8	2	1	30	7	16	6	4	2
自給的農家	戸	9	—	—	—	2	2	2	2	1	—
年齢別世帯員数	人	279	24	8	6	117	28	55	22	14	5
男	人	130	12	5	3	52	14	23	12	7	2
女	人	149	12	3	3	65	14	32	10	7	3
経営耕地のある農家数	戸	84	8	2	1	32	9	18	8	5	1
畑	戸	82	7	1	1	32	9	18	8	5	1
樹園地	戸	10	5	1	—	3	—	1	—	—	—
経営耕地面積	ha	767.10	17.36	3.20	18.00	428.23	56.38	198.24	43.60	1.49	0.60
畑	ha	757.76	12.52	1.20	18.00	425.83	56.38	198.14	43.60	1.49	0.60
樹園地	ha	9.34	4.84	2.00	—	2.40	—	0.10	—	—	—

表1-1.（農業センサス 2000年）

図1-6. 集 落 区 分 図



②人口の現状と動向

全　市

本市の人口は昭和50年代後半まで増加を続けたものの、昭和58年の59,481人をピークに近年では都市化の落ち着きや少子化傾向などからほぼ横這状態にある。

一方で世帯数については、核家族化の進行などの要因から１世帯当たりの人口が減少していることもあるが、依然として増加を続けている。近年では、増加傾向も弱まりを見せているが、今後も斬増もしくは横這となることが予想される。

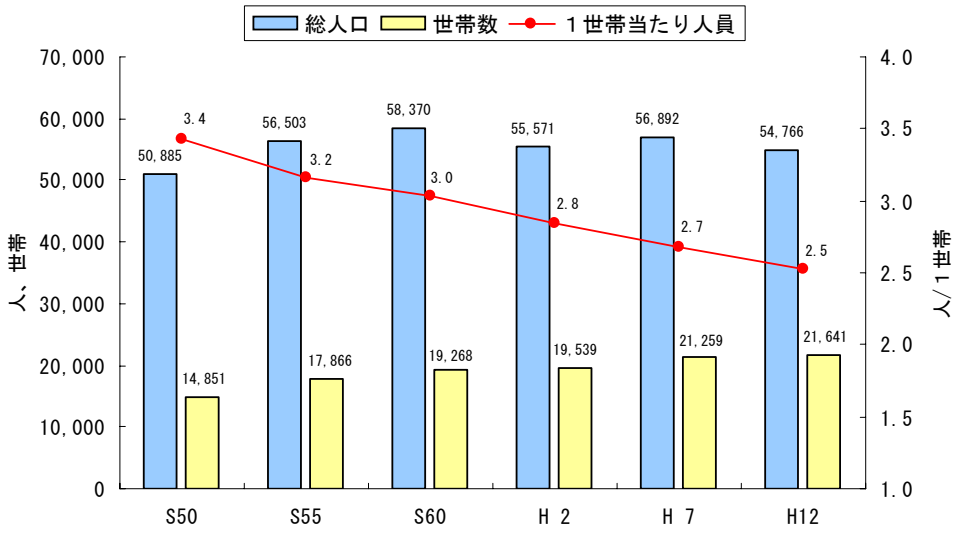


図1-7. 総人口・世帯数の推移（国勢調査）

年齢階層別人口の推移をみると、平成12年の調査で、幼年人口（0～14歳）が7,291人（13.3%）、生産年齢人口（15～64歳）が36,369人（66.4%）、老年人口（65歳以上）が11,097人（20.3%）となっており、昭和50年に比べると、幼年人口は44%の減、老年人口に於いては約４倍にも増えている。

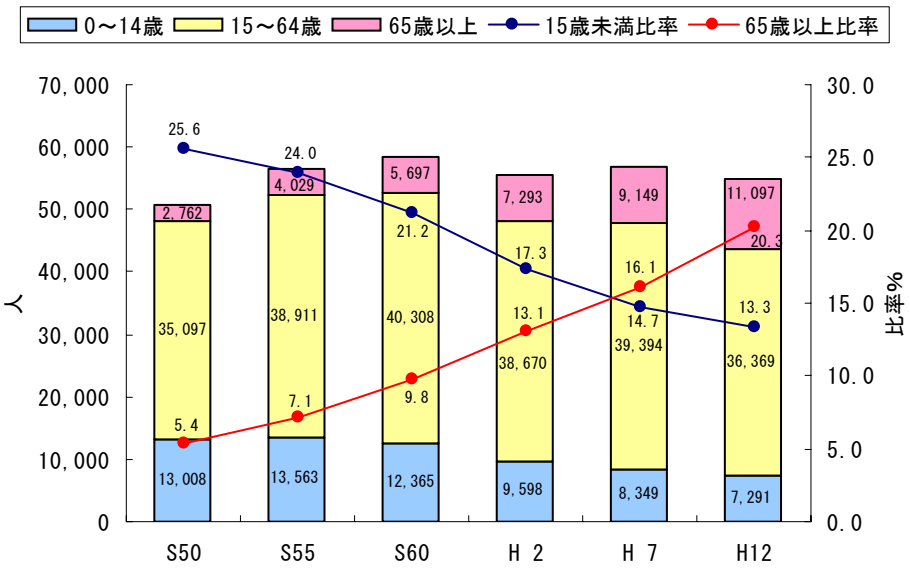


図1-8. 年齢階層別人口の推移（国勢調査）

農村部

登別農業の中心地である札内・来馬地区の人口と世帯数の推移を見ると、農業の低迷と共に世帯数、人口共に年々減少している。特に平成12年は札内がH7年比59%と、減少率が著しい。農業者の高齢化と後継者不足を考慮すると、今後人口はさらに減少することが予想され、地域農業の振興による新規就農者の確保が急務である。

		S55	S60	H 2	H 7	H12
総人口	計	242	212	203	174	108
	札 内	202	182	171	142	84
	来 馬	40	30	32	32	24
世帯数	計	75	62	65	61	40
	札 内	65	52	54	47	30
	来 馬	10	10	11	14	10
1世帯当り人員	計	3.2	3.4	3.1	2.9	2.7
	札 内	3.1	3.5	3.2	3.0	2.8
	来 馬	4.0	3.0	2.9	2.3	2.4

表1-1. 農村部における総人口・世帯数の推移(国勢調査)

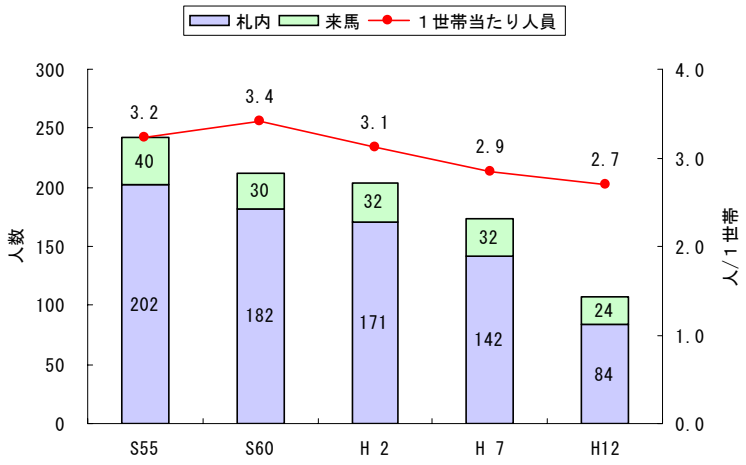


図1-9. 農村部における総人口・世帯数の推移(国勢調査)

③土地利用の現状と動向

本市は、212.11km²の面積を有し、そのうち約69%が山林で占められている。山岳、丘陵地帯が太平洋までせまってきており、海岸沿いに約１km程度の幅で平坦地が帯状に拡がっており、市街地が形成されてきている。

隣接する室蘭市の工業化及び都市化の進展ととおもに、本市も昭和35年以降急速に都市化が進み、昭和19年４月に都市計画の指定を受けた本市では、昭和45年に都市計画区域が設定され、現在、市街化区域 約1,396ha、市街化調整区域 約9,710haとなっている。

一方、登別地区からカルルス地区まで観光地としての土地利用が進んでおり、計画的な土地利用が進められている。

市域の５%程度を占める農地は高台の札内地区を主体に分布し、酪農・畜産を主体とした農業が営まれている。

単位：ha

	平成８年	平成９年	平成10年	平成11年	平成12年
田	1	0	0	0	0
畑	615	608	643	649	784
宅　地	839	842	845	845	855
池	9	9	9	9	9
山　林	14,220	14,200	14,231	14,184	14,669
牧　場	566	565	518	520	480
原　野	1,511	1,473	1,443	1,468	1,224
雑　種	565	625	625	630	633
その他	2,885	2,889	2,897	2,906	2,557
総　数	21,211	21,211	21,211	21,211	21,211

表1-2. 土地利用の推移（登別市税務課）

本市の地域指定は、農業振興地域、都市計画区域、特定農山村地域等下表の通りである。

市町村名	農振振興地域指定	都市計画	支笏洞爺国立公園	特定農山村地域指定	新産業都市（道央地区）	酪農･肉用牛生産近代化計画認定	寒冷地畑作振興地域	海岸保全区域
登別市	S48.9.29	S19.4.5	S24.5.16	H5.9.28	S35.4.3	H13.3.30	S39.7.29	S32.5.29

表1-3. 各種地域指定状況

④産業の現状と動向

A. 産業構造

登別を代表する産業としては、温泉を核とする観光業が挙げられる。市内には２つの温泉地の他､テーマパークなどの観光資源も豊富に存在しており、宿泊施設を始めとするサービス業、卸売・小売業といった第３次産業が産業構造の上位を占めている。また、第２次産業は窯業・土石製品を主力とする製造業と建設業が中心となっている。一方、丘陵地帯における酪農・畜産と３漁港による漁業・水産養殖業で構成される第１次産業については、就業人口の構成比率がわずか１％程度に留まっており、市内の産業構造に占める割合は非常に小さいものとなっている。

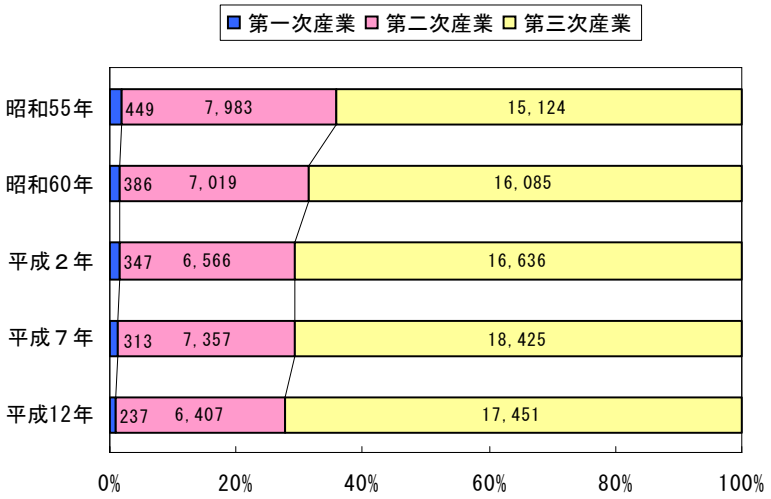


図1-10. 産業別就業人口の推移（国勢調査）

B．産業別の現状と動向

【農　業】

（１）農家戸数及び農家人口

農業センサスによると、市内の農家戸数は昭和55年の140戸から年々減少を続けており、平成12年には85戸と、20年間で55戸（39％）が離農している。平成12年の総農家戸数85戸のうち販売農家は76戸、自給的農家は９戸。農家人口は279人で、販売農家は228人である。

専兼業別の推移を見ると、比較的体力の劣る兼業農家が多く離農しており、これが全体の農家戸数の減少に直接影響している。専業農家は平成７年には50戸に急増しているが平成12年には元の30戸台に戻っている。本地域では、多大な労力を要する酪農・畜産業が主体となることから、農家の専業化は進むと見られ、専業農家率は平成12年の35％からさらに伸びていくものと思われる。

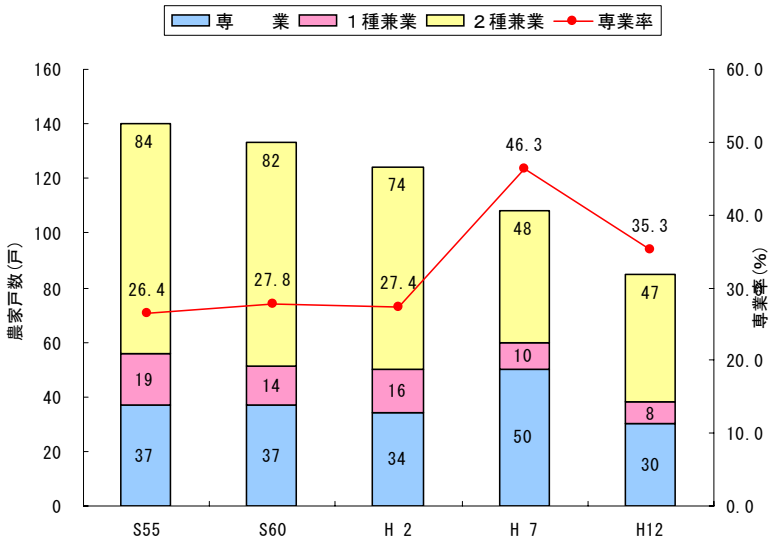


図1-11. 専業・兼業別農家戸数の推移（農業センサス）

農家人口は昭和55年の554人から平成12年の279人へと半数まで減少している。農業者の高齢化に伴う担い手不足や、農産物輸入自由化と国内における産地間競争による農産物の低価格化傾向といった大きな課題を抱える中では、今後もこの傾向は続くものと予想される。

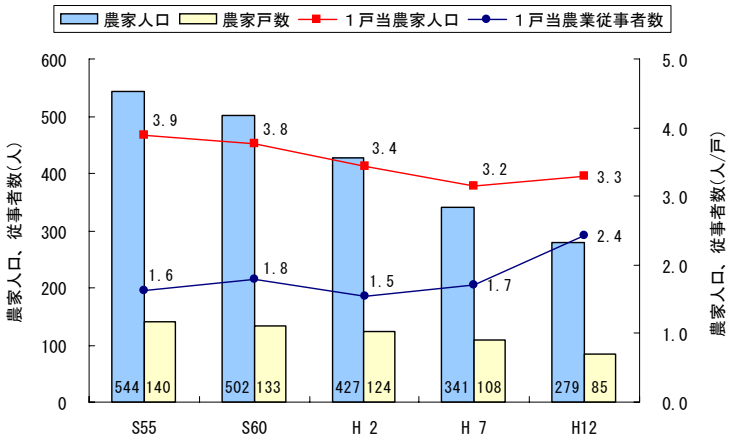


図1-12. 総農家人口の推移（資料：農業センサス）

１戸当たりの農家人口は漸減で、兼業農家が減少し、酪農畜産の専業農家が増えつつあることから、１戸当たりの農業従事者は漸増となっている。

このうち、基幹的農業従事者は、平成12年のセンサスでは108人であるが、その内訳を年齢別に見ると、下図のようになり、約半数が65歳以上の高齢者で占められ、著しく高齢化しており、20代は４人しか居ない。

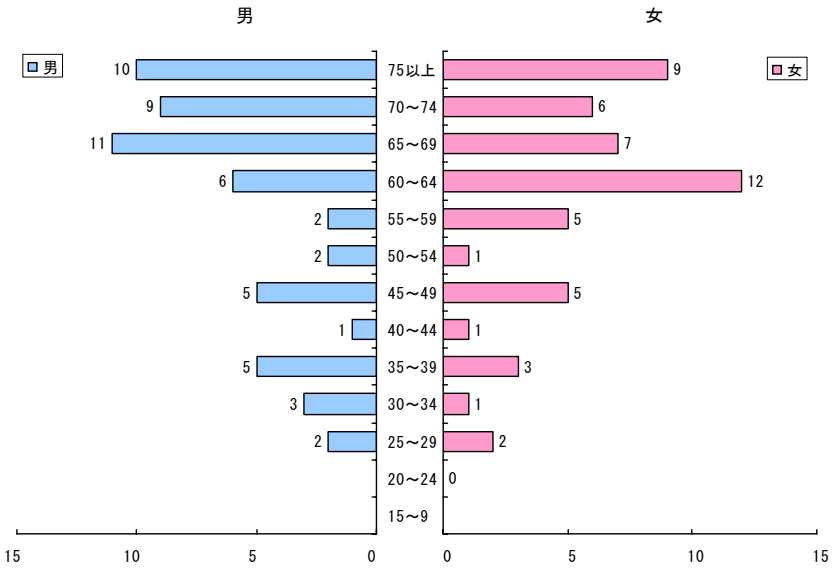


図1-13. 年齢別基幹的農業従事者(資料：農業センサス H12)

後継者の居る農家は、平成12年のセンサスでは18戸で、販売農家全体の24%しか居ない。

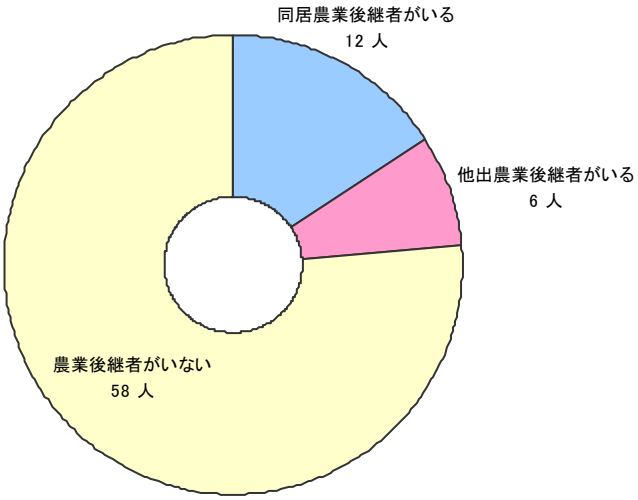


図1-14. 農業後継者の有無（資料：農業センサス）

このように、本地域では、農家数・農家人口とも減少し続け、著しい高齢化が進んでおり、後継者不在農家が圧倒的に多いという極めて危機的な状況にある。

（２）経営耕地面積

農業センサスより経営耕地面積の推移を見ると、多少の増減はあるものの、全体として増加傾向である。内訳を見ると、水田は平成７年に消滅しており、樹園地も年々増加傾向にあるが、平成12年には９haに減少しており、ほぼ横ばい状況である。（本地域の樹園地は、果樹生産ではなく花木や苗木の生産に供せられている農地である。）逆に増加しているものは畑地で、中でも牧草地は、年々増加しており、逆に普通畑は減少傾向にある。平成12年センサスでは販売農家の経営耕地面積は765.48haで、畑は756.24ha。内訳は、牧草専用地が381.47ha、普通畑366.27ha(飼料作物だけの作付け346.27ha)、不作付け畑8.5haで、牧草専用地と飼料作物畑を合わせると、727.74haとなる。また畑のうち残りの20.0haは詳細は不明であるが、野菜類の販売目的で1.34ha、同じく豆類で0.05haが含まれている。他に樹園地(花木、苗木生産)が9.24haとなっている。

一戸当たりの経営耕地面積の推移は、年々増加しており、平成７年以降は飛躍的に伸びている。

本地域では、農家戸数が年々減少する一方、経営耕地面積は増加し、中でも牧草地の面積が増え、それに伴い一戸当たりの経営耕地面積が増えていることから、特に酪農家の一戸当たりの経営耕地面積が年々拡大しているといえる。ただし、平成７年から平成12年にかけては急速な伸びは見せておらず、落ち着いた状態となっている。

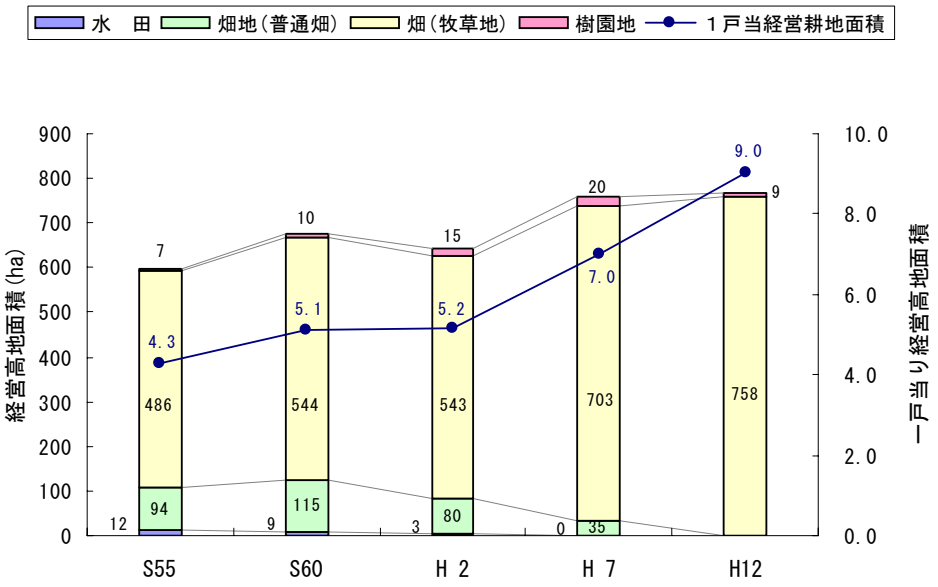


図1-15. 経営耕地面積の推移（資料：農業センサス）

経営規模別耕地面積を見ると、昭和55年では3.0ha未満の農家比率が65.7%を占め、小規模経営であった。近年では農家戸数の減少に伴う農地流動化の進行などから、10ha以上の中・大規模農家の増加が見られ、平成12年には全体の28.2%に及んでいる。

3.0ha未満の小規模農家は平成12年でも依然として半数以上を占めているが、酪農・畜産を主体とした農業経営が主流となる本地域では、今後とも、農地の流動化による、意欲ある担い手への農地の集積が進むものと見られ、小規模経営農家の割合は徐々に減少していくものと思われる。

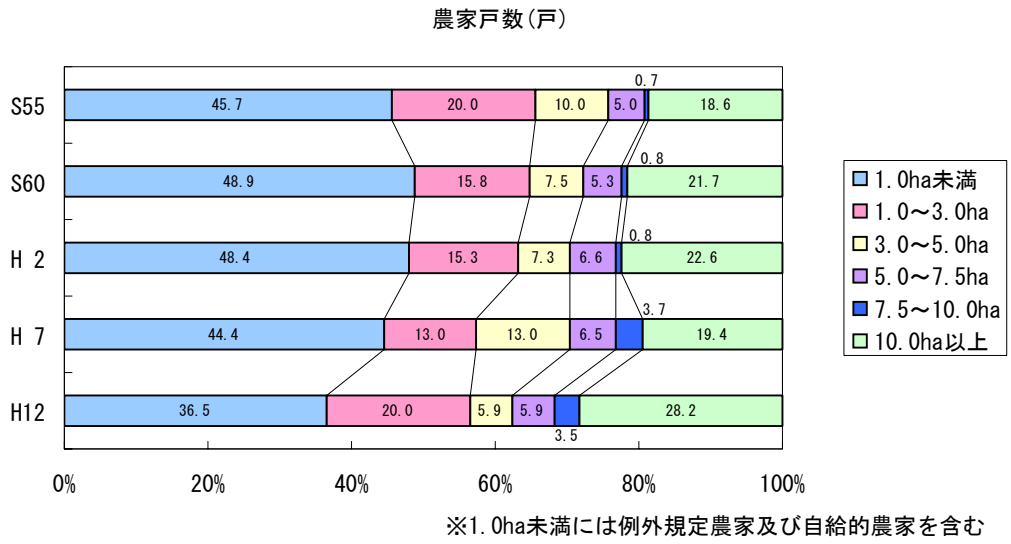
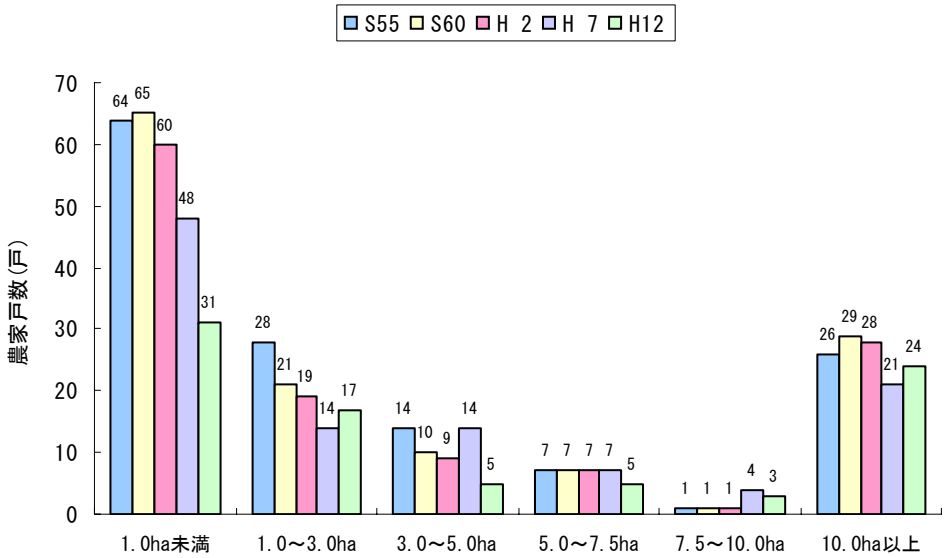


図1-16. 経営規模別農家戸数割合の推移（資料：農業センサス）



これを平成２年以降のセンサスでさらに詳しく見ると経営耕地面積の規模拡大傾向が明瞭に見て取れる。

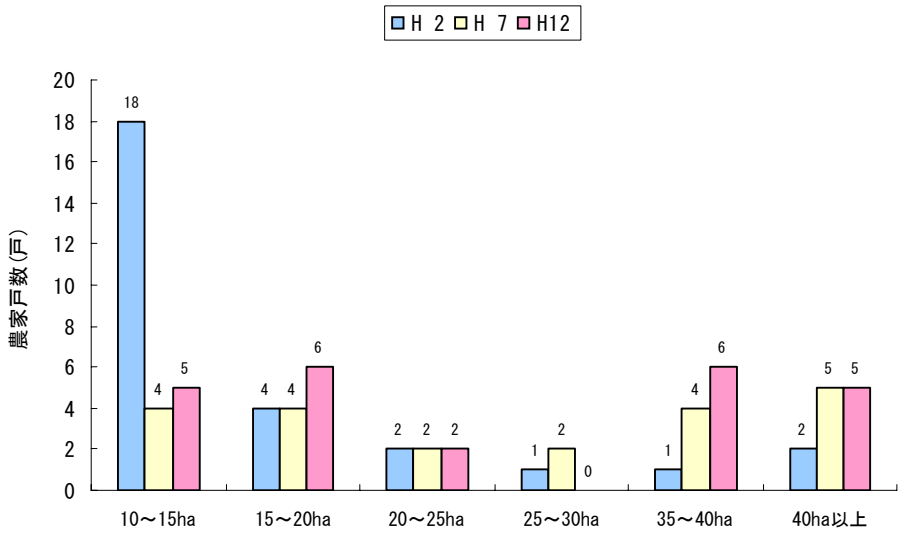


図1-17. 経営規模別(10ha以上)農家戸数割合の推移（資料：農業センサス）

基幹的農業従事者の１人あたり耕地面積を見ると平成７年以降倍増している。これは、基幹的農業従事者数が平成２年から平成７年にかけて半減していること、また経営耕地面積の規模が拡大傾向にあることによる。

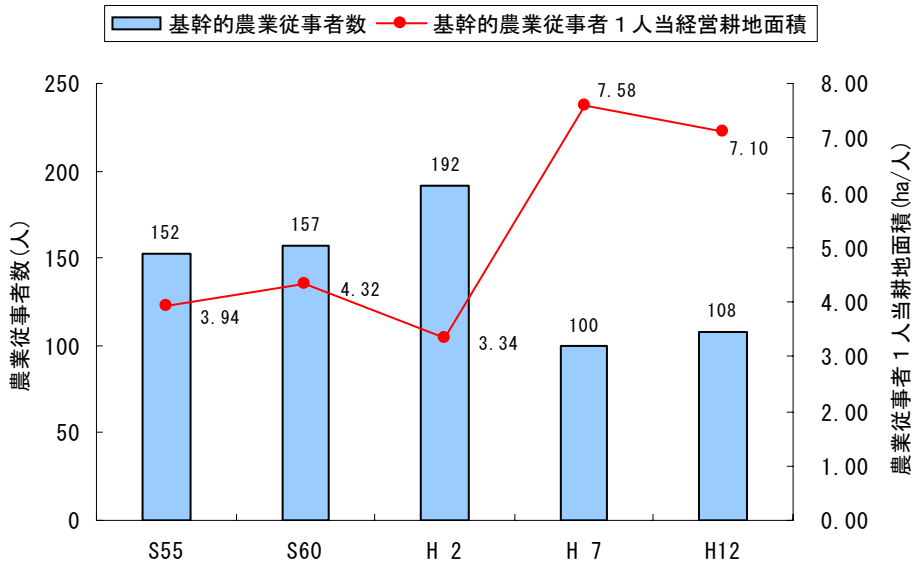


図1-18. 基幹的農業従事者数の推移（資料：農業センサス）

（３）家畜飼養頭数

家畜の飼養頭数について、昭和50年からの推移を下図に示した。

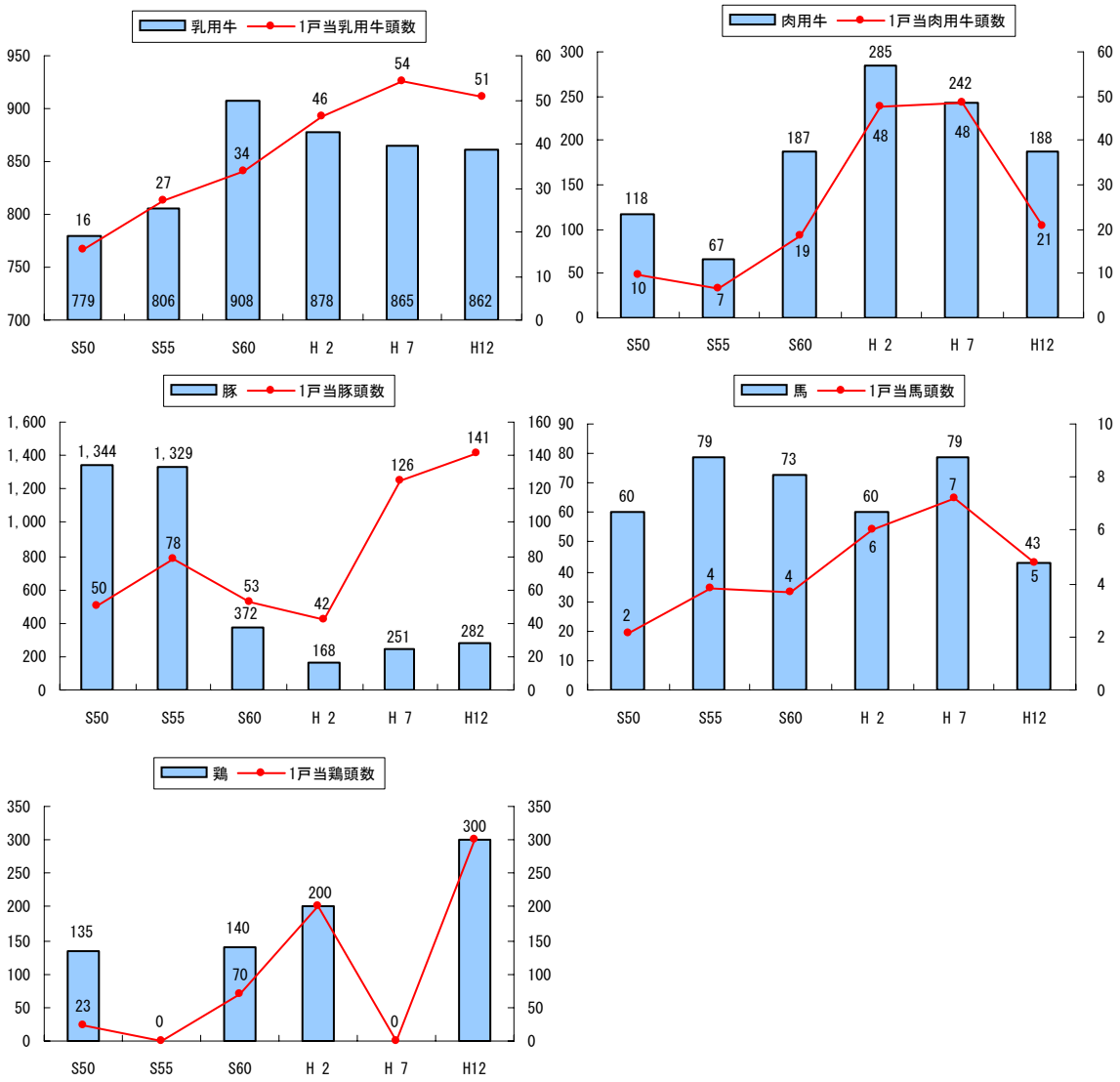


図1-19. 種別家畜頭数及び飼育農家１戸当り頭数の推移（資料：農業センサス）

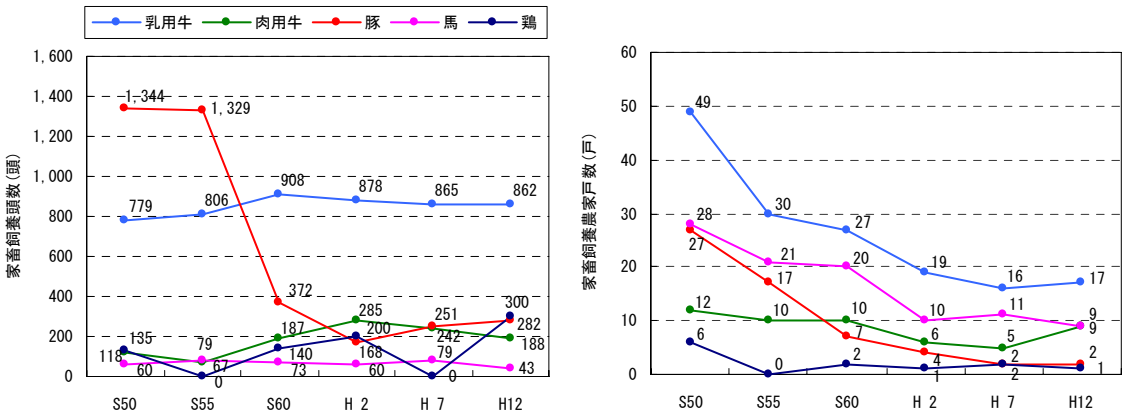


図1-20. 家畜頭数及び飼育農家数の推移（資料：農業センサス）

家畜の飼養頭数は、乳用牛が平成７年以降860頭台でほぼ横ばいに推移しており戸当たり飼養頭数もほぼ50頭台、飼養農家戸数も17戸前後で横ばいとなっている。平成12年のセンサスでは、飼養農家は17戸、乳用牛862頭。うち２歳以上の乳用牛の飼養頭数規模別農家数の推移を平成２年より見ると、下図のように年々飼養頭数は拡大傾向にある。

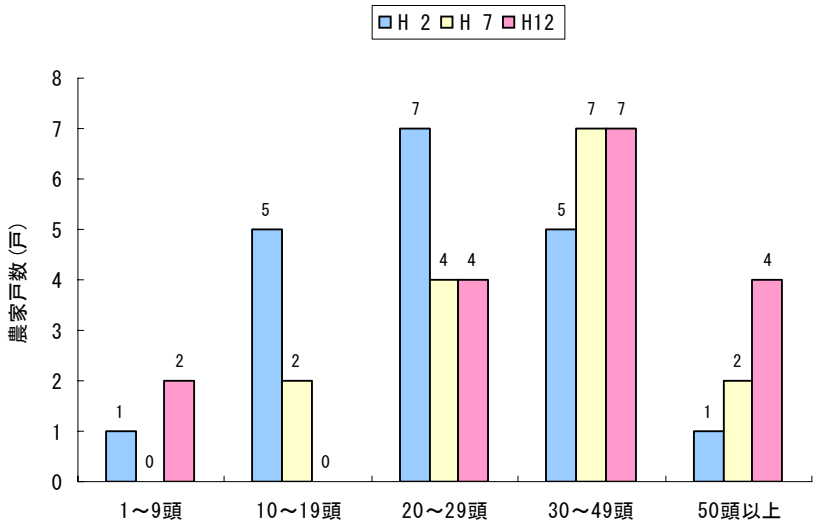


図1-21. 飼養頭数規模別農家数の推移（資料：農業センサス）

肉用牛は平成12年のセンサスでは、９戸188頭である。平成２年より飼養頭数は減少しているが、飼育農家は逆に増えている。

馬産農家は総体として漸減傾向で、平成12年のセンサスでは、農用馬５戸20頭、軽種馬４戸23頭となっている。

その他の畜産及び農業事業体も含めた詳細について、平成８年からの資料を「北海道農業基本調査」より下表に示した。

年　次	区　分	乳　牛		肉　牛		馬		豚		緬　羊		にわとり	
		戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数
平成８年	農　　家	16	806	4	208	10	76	2	251	—	—	—	—
	農業事業体	—	—	4	1,241	—	—	1	2,900	1	200	1	235,300
平成９年	農　　家	16	820	1	137	8	71	3	386	—	—	—	—
	農業事業体	1	123	3	837	2	20	1	1,800	1	20	1	224,251
平成10年	農　　家	17	846	5	85	10	74	2	214	1	1	3	370
	農業事業体	2	262	4	976	1	15			1	21	1	237,164
平成11年	農　　家	18	842	7	125	10	60	2	293	2	3	2	360
	農業事業体	1	90	4	874	1	16			1	14	1	235,540
平成12年	農　　家	17	862	9	188	9	43	2	282	—	—	1	300
	農業事業体	1	22	4	1,008	—	—	1	237	—	—	1	240,000

表1-4. 家畜飼養戸数および頭羽数（資料：北海道農業基本調査）

これを見ると、酪農では、農家の方は、年々飼養頭数は増加している。逆に農業事業体は増減の変動が大きい。

肉牛は、平成10年以降、農家戸数、飼養頭数ともに増加傾向である。農業事業体は４つあるが合わせて1,000頭代にまで増えている。馬は平成10年以降減少傾向にある。養豚は平成10年以降激減しほぼ横ばい状況である。緬羊は平成12年では皆無となった。養鶏は、飼養農家は１戸で、飼養羽数は300羽代で推移しているが、農業事業体は１社が24万羽を飼養している。

（４）農業粗生産額及び生産農業所得

本市は、気象面において通年温和な海洋性気候ではあるが、雨量が多く夏期に海霧が発生すると共に、土壌についても有珠系火山灰土であるという特徴を有しているため、畑作等には適さないことから、酪農・畜産が農業生産の主体を担っている。農業粗生産額においても、耕種の占める割合はわずか２％程度に留まっており、大半が畜産によるものとなっている。総農業粗生産額については平成４年をピークに平成６年にかけて大きく減少したが、近年では横這い状態にある。

主体である畜産においては、昭和63年に主力であった肉用牛及び豚の減少が著しく、替わって順調な伸びを示してきた鶏が現在の第１位となっている。また、乳用牛に関しては多少の増減があるものの、ほぼ横這い傾向で推移している。

区分	農業粗生産額（百万円）										
	耕種					畜産					計
年次	米	いも類	野菜	花き	その他	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他	
S63	－	1	20	8	－	402	269	339	206	373	1,618
H元	1	1	22	29	－	389	333	347	221	518	1,861
H 2	－	1	22	44	－	315	317	287	359	480	1,825
H 3	－	0	31	43	－	327	304	297	571	476	2,049
H 4	0	1	30	35	－	289	300	215	843	339	2,052
H 5	－	1	71	21	2	248	280	308	601	306	1,838
H 6	－	1	41	2	1	93	260	280	510	186	1,374
H 7	－	1	42	13	4	56	258	216	544	196	1,330
H 8	－	0	38	28	－	67	278	123	664	369	1,567
H 9	－	0	26	47	－	68	301	79	667	300	1,488
H10	－	0	26	6	－	66	298	74	592	243	1,305
H11	－	0	23	11	－	82	298	46	640	296	1,396

表1-5. 農業粗生産額の推移（資料：北海道農林水産統計年報）

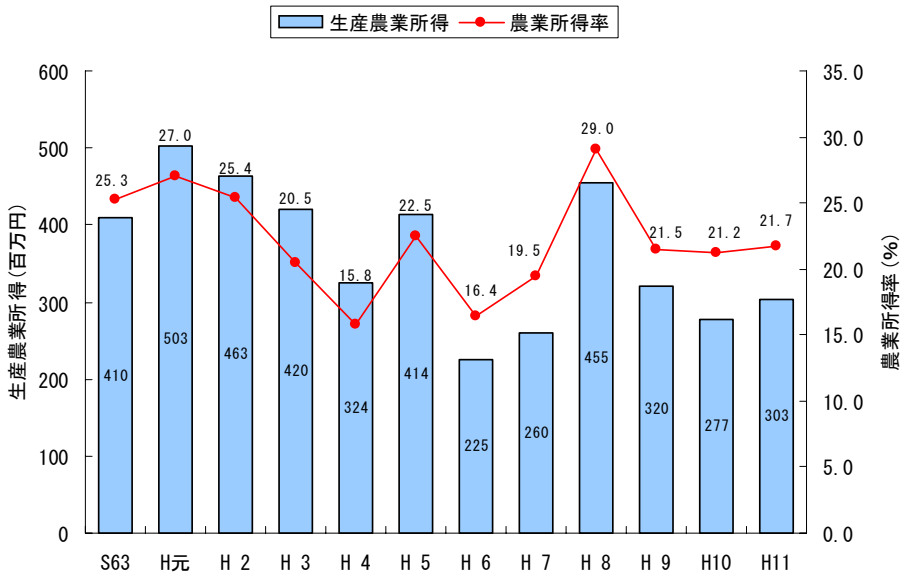


図1-22. 生産農業所得、農業所得率の推移（資料：北海道農林水産統計年報）

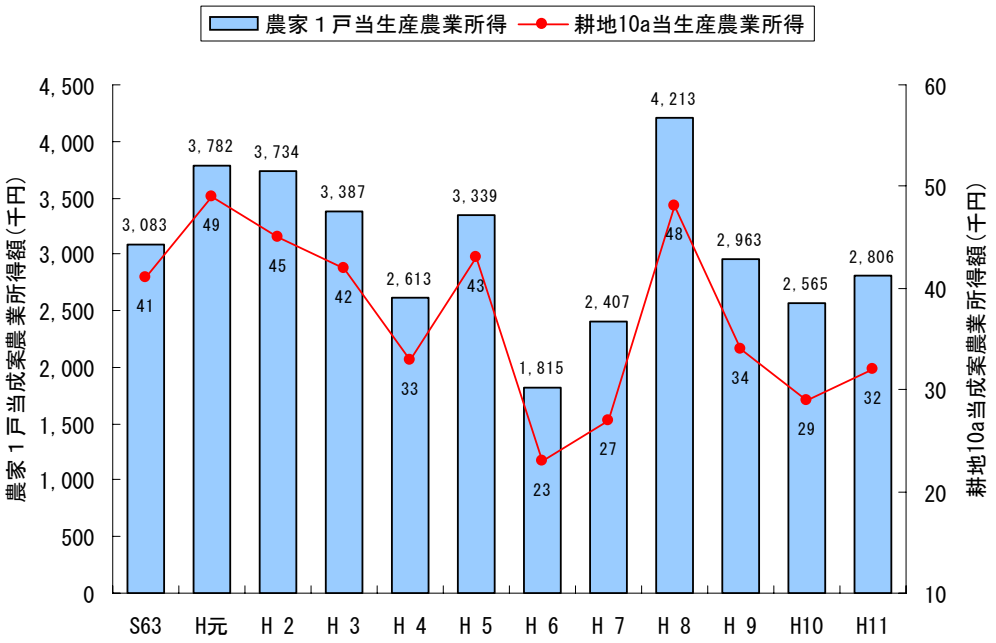


図1-23 農家１戸当り及び耕地10a当り生産農業所得の推移

（資料：北海道農林水産統計年報）

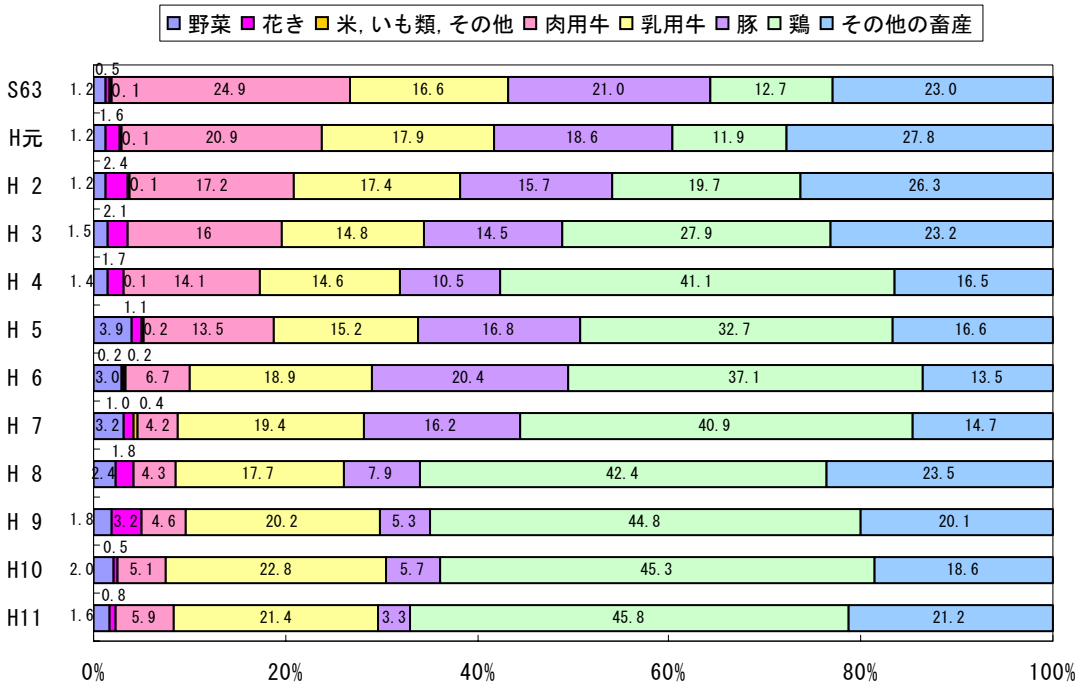


図1-24. 作目別農業粗生産額割合の推移（資料：北海道農林水産統計年報）

（５）基盤整備状況

今までは、農道、排水路の整備が主体で、面整備は市営牧場や農地開発が地域外で行われたにすぎなかったが、平成12年より道営草地整備改良事業が実施され、面的整備も行われるようになった。

○ほ場整備・農用地造成

事　業　名		地区名	面　積	実施年度
道営草地整備改良事業(草地改良)	(草地改良)	胆振中部	438 ha	H12～H15
公社営畜産基地建設	(草地造成)		45 ha	S58～S63
団体営農地開発	(農地造成)	川　上	26 ha	S44～S46
団体営公共牧場整備	(草地改良)	登　別	45 ha	H 8～H11

○営農飲雑用水

事　業　名	地区名	面　積	実施年度
道営営農用水	札　内	1,647 ha	S46～S48
道営畑地帯総合整備(一般型)	札　内	1,086 ha	H 6～H 9

○農業用排水施設

事　業　名	地区名	受益面積	実施年度
道営農地保全整備	中札内	237 ha	S42～S48
道営農地保全整備	西札内	332 ha	S44～S52
道営農地保全整備	来　馬	409 ha	S45～S51
道営畑地帯総合整備(緊急整備型)	中札内	84 ha	H 8～H11
団体営かんがい排水	富　岸	52 ha	S43～S44
団体営農地開発	川　上	26 ha	S44～S46

○農　道

事　業　名	地区名	実延長(a)	内舗装延長(b)	b／a	実施年度
道営農免農道整備	札　内	7,121 m	0 m	0%	S43～S46
道営農免農道整備	札内第２	2,428 m	0 m	0%	S47～S50
道営農免農道整備	中札内	1,162 m	1,162 m	100%	S57～S62
道営農免農道整備	中札内２期	2,695 m	2,695 m	100%	S59～S63
道営農免農道整備	来馬第１	2,236 m	2,236 m	100%	H 2～H10
道営農免農道整備	西札内	1,045 m	1,045 m	100%	H 9～H12
道営農免農道整備	来馬第1･2期	2,734 m	2,734 m	100%	H10～H16
道営畑地帯総合整備(緊急整備型)	中札内	1,275 m	1,275 m	100%	H 8～H11
道営農道整備特別対策	鉱　山	3,946 m	3,946 m	100%	H 9～H12
団体営農道整備(普通農道)	富　岸	5,760 m	0 m	0%	S43～S46
団体営農道整備(普通農道)	札　内	1,372 m	0 m	0%	S47～S48

【林　業】

国有林は、その約半分が木材生産などの産業活動のための木材生産林であるが、残りの半分が国土保全林、自然維持林、森林空間利用林となっており、災害防止や自然環境保全、保健、文化的利用など交易機能に重点をおいた森林として、保護、育成されている。

民有林においては、天然林の割合が高いということが特徴となっており、全体の約87%を占めている。また、全体の約26%が国立公園(支笏洞爺国立公園)または保安林などに指定され、制限林となっている。

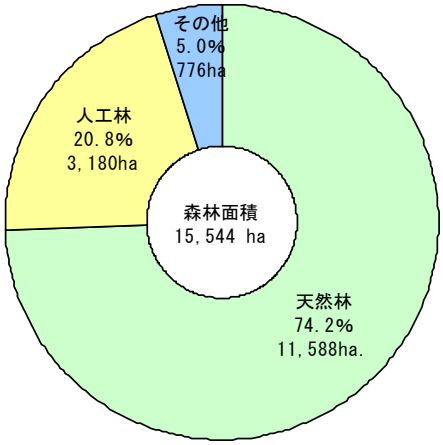


図1-25.種別森林面積
(北海道林業統計)H12.4.1

【漁　業】

本市の漁業は、昭和25年を境に潮流の変化と、無計画な乱獲などによって資源が枯渇したが、昭和26年度より栽培漁業振興のための人工昆布礁築設、及びホッキ幼貝事業を実施し、さらに、昭和39年より沿岸漁業構造改善事業実施地域の指定を受け、漁場環境の改善、各種共同利用施設の建設、漁港の整備、漁船の建造改善等が進められ現在に至っている。

漁港は富浦、鷲別漁港が第１種、登別漁港が第３種漁港に指定されているが、最近は登別漁港の拡充整備により、漁業本拠地は同港に集約されている。

本市の漁業は、ホッキ貝、エビ、スケトウダラ、カレイ、春秋サケ定置が主体である。

漁業経営の基本は、従来の捕獲一方の漁業から、資源の栽培と養殖技術の向上を図りながら水産資源維持の拡大を課題としている。

【商　業】

本市の商業は、人口の急増と社会経済の伸展を背景とした個人消費力の拡充に支えられ、順調に伸びていたが、平成９年の年間商品販売額 7,775,826万円と比べ、平成11年には 6,840,523万円と落ち込んだ。市街地が４地区に分散し、そこに商店街が形成される多心的都市構造による商業集積の弱さと交通利便性の増大による購買力の市外流出等、様々な課題を抱えている。

従って、時代に即した近代化と、魅力ある商店街の形成による市民の購買力の吸収が市内商業の振興を図るための大きな課題としている。

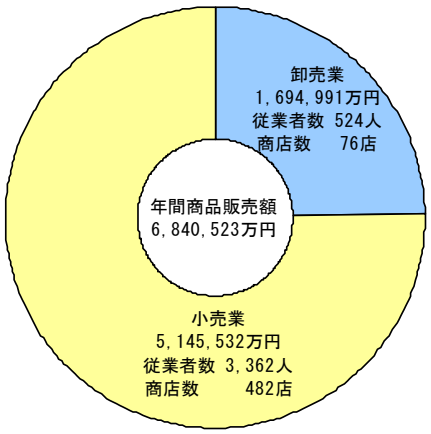


図1-26.商店の状況
(商業統計 平成11年の数値)

【観　光】

本市は道央観光圏だけでなく、全国的スケールで評価されている国際的観光地、登別温泉を擁しており、この観光は産業構成上大きなウエイトを占めている。

支笏洞爺国立公園内に位置する当市は、豊富な湯量と多種の泉質を誇る登別温泉と山間の静かな国民保養温泉地カルルス温泉を中心に、地獄谷・大湯沼などの自然資源に加え、３つのテーマパークが立地するなど、北海道を代表する観光地との競争が激化し、観光を取り巻く環境は厳しい状況にある。

道央観光圏は、札幌・小樽・苫小牧・室蘭市の主要都市と、胆振日高・石狩・後志・空知の各支庁管内を含めた観光圏域で、この中には支笏洞爺国立公園、ニセコ積丹小樽海岸国定公園、襟裳道立自然公園などがある。スケールの点では全国的で登別温泉はこのほぼ中央に位置しており、交通も至便である。この恵まれた立地条件を最大限に生かすことが、本市観光の将来を左右し、市の発展に大きく貢献する。

最近の観光客入込数は、平成12年には有珠山噴火の影響を受け、前年に比べると13%も落ち込んだが、今は影響も薄らいでいる。

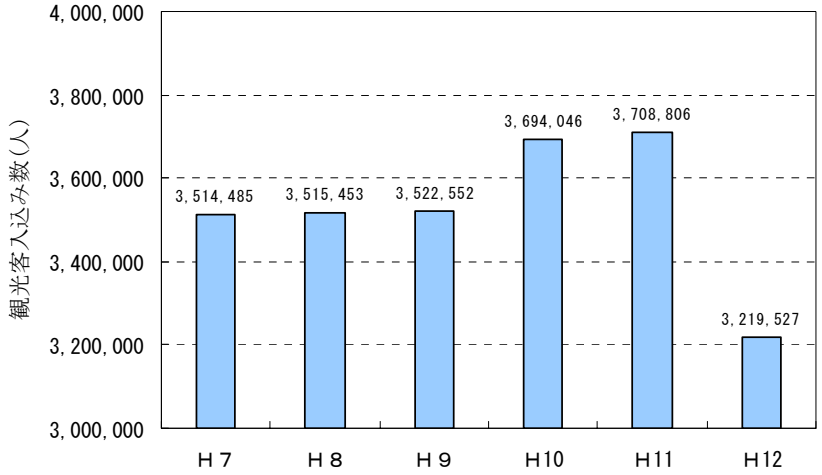


図1-27. 観光客入込数の推移(登別観光室)

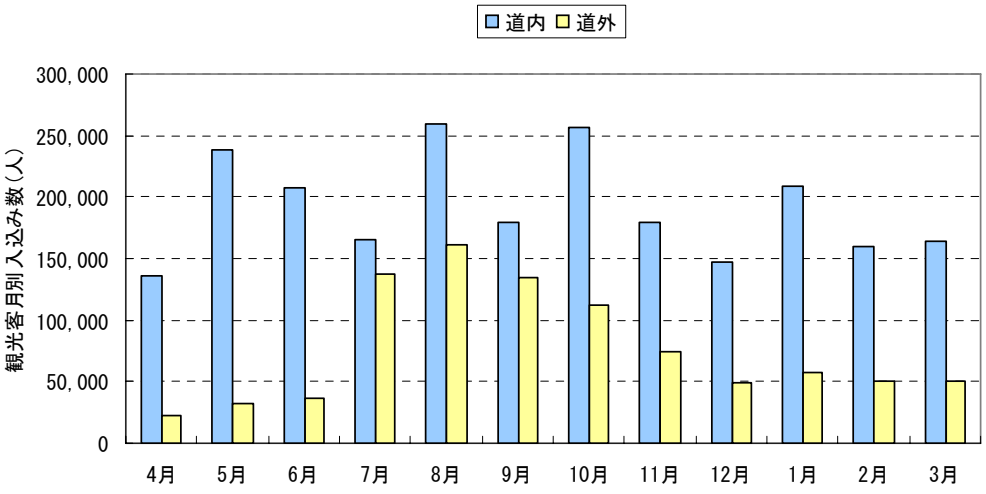


図1-28. 平成13年度月別観光客入込数(登別市)

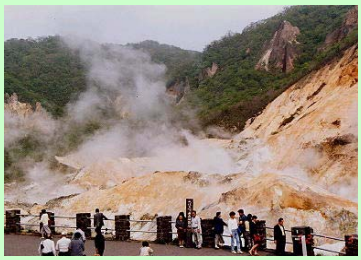
マリンパーク

北欧デンマークのイーエスコー城をモデルにした水族館をメインに、周りの建物も全て北欧様式で、入口から園内に入るとヨーロッパに来てしまったかのような風景です。小人から大人まで楽しめる構成で、アシカショーやイルカショー、大道芸人のちょっとしたショーも楽しめます。

クマ牧場

クマ牧場は、総面積66,000㎡で、標高550mのクマ山（四方嶺：しほうれい）の山頂にあります。北海道に生息している野生ヒグマ8頭により昭和33年に開設され、世界で初めてヒグマの多頭集団飼育に成功し、現在の飼育頭数は約160頭余りです。

地　獄　谷



登別温泉の旅館やホテルなどのほとんどのお湯がここから湧き出ており、その量はなんと毎分3,000㍑。現在、安全防護柵が張られ、中までは見られませんが、竜巻地獄・大砲地獄・血の池地獄・鉛地獄・乙女地獄と名前の付けられた箇所をご覧になれます。みょうばん泉、鉄泉、硫黄泉などが湧き出ています。

伊達時代村

江戸時代の文化・風俗をまるごと再現したレジャーランドです。「北海道歴史劇場」「忍者かすみ屋敷」「日本伝統文化劇場「礼節問答劇場」が常時上演されてるほか、お食事処9軒、お土産処15軒ほか、建物94棟が軒を連ねています。「ニャンまげくん」にも会うことができます。

大　湯　沼

地獄谷遊歩道を少し横道にそれて坂道を15分ほど上がって展望台にいくと、眼下に大きな水溜まりのような景色が見えます。爆裂火口の跡地に水が溜まって後にこうしてお湯が湧き出る沼になりました。表面温度は40～50℃で、時々「かも」が大湯沼のお湯につかりにくる風景を見ることもできます。

カルルス温泉

温泉街は高い山々に三方を囲まれた狭い谷あいにあり、残る一方はなだらかな斜面を経て太平洋に面しています。カルルス温泉は温泉の泉質のすばらしさと、効能そして温泉地の良好な環境から、今でも湯治を行う最適の温泉地として人々に愛されています。

登別原始林（天然記念物）

大正13年に「登別原始林」として天然記念物に指定されました。地獄谷と大湯沼を中心とする185.86haの区域です。錦おりなす原始林の魅力は、若葉の頃もさることながら、赤に黄色に微妙な色彩の変化を見せる紅葉期がお勧めとも言えます。

サンライバスキー場

全コースが7コース、うち初級者向け２コース、中・上級者向けコースが5コースとどんなスキーヤーであろうと楽しむことができます。スキー用具のレンタルもありますし、スクールも毎日開催されているので、いつでも学び、楽しむことができます。

橘　　湖

カルルス温泉の東、1.3ｋｍの地点にある、クッタラ外輪山の小爆裂火口に形成された火口湖です。楕円形で周囲約1.5ｋｍ、水面標高380mで、湖の周囲はミズナラ、ホオノキ、ハルニレ、オヒョウやキタコブシなど広葉樹林に包まれ、野鳥も多く、クマゲラのドラミングも聞こえます。

三段の滝

高さ50mに及ぶ三段の滝は隠れた名所とされています。幌別ダム湖の脇を通る林道を3㎞ほど上る場所にあり、3段に分かれた逆馬型の滝で、水の流れは美しい白糸のようです。

題　目　石

明治4年に伊達妙栄寺の開山である日進上人が墨で自然石にお題目を書いたものであるといわれています。
今では判読することはできませんが、水を注ぐとわずかに墨痕をうかがうことができます。

鉈作観音像

寛文6年、美濃国の僧、円空上人が道南各地を巡錫しながら鉈作りというナター丁で観音像を刻み、その1体が当時権現沢に祀られていました。この観音像は明治44年の山火事で一時行方不明になりましたが、その後黒焦げになって発見され、現在は地獄谷展望丘の一角に社を設けて安置されています。

薬師如来堂

文久元年、火薬の原料として地獄谷から硫黄を採掘していた南部藩栃内氏の家臣善四郎の職人がお堂の下から湧いている温泉で目を洗ったところ眼病が治ったことから、そのお礼として寄進した石碑が安置されているのが薬師如来です。以来、湯治客からは目の湯として伝承されています。

鬼

煮えたぎる熱湯、 立ち上がる噴煙。登別温泉を代表する名所地獄谷を「鬼の棲む地獄」と見たのは、現代人ばかりではなく、江戸末期にこの地を「歩むが如く恐ろしい場所」と形容しています。温泉街には鬼にちなんだものが沢山あり、“メイン道路立っている小鬼”など、「鬼ウォッチング」も楽しめます。

蘭法華岬

写真は、蘭法華岬からのぼる朝日。蘭法華の原名は「ランポッケ」と呼ばれ「坂の下の所」という意味です。富浦町に位置し、旧国道まで来ると長い尾が断崖となって太平洋に突き出ているのがわかります。この岬は南東の風をさえぎる役を果たし、かつては、安全な舟入澗として利用されていました。

鷲　別　岬

蘭法華岬と平行する形で、太平洋に突き出ており、室蘭市との境界線がこの岬を起点に引かれています。
鯨岬とも呼ばれ、これは、明治38年の春、鷲別の前浜に一頭の鯨が打ち上げられ、その肉を売った金で神社を建立するまでに至ったことから、その呼び名が付いたと伝えられています。

■観光・レクリエーション

登別市の観光・レクリエーション資源は温泉ホテル、スキー場、ゴルフ場、テーマパークなど主にリゾート型レクリエーション資源を多く備えており、特に登別温泉は年間300万人の観光客が訪れている。

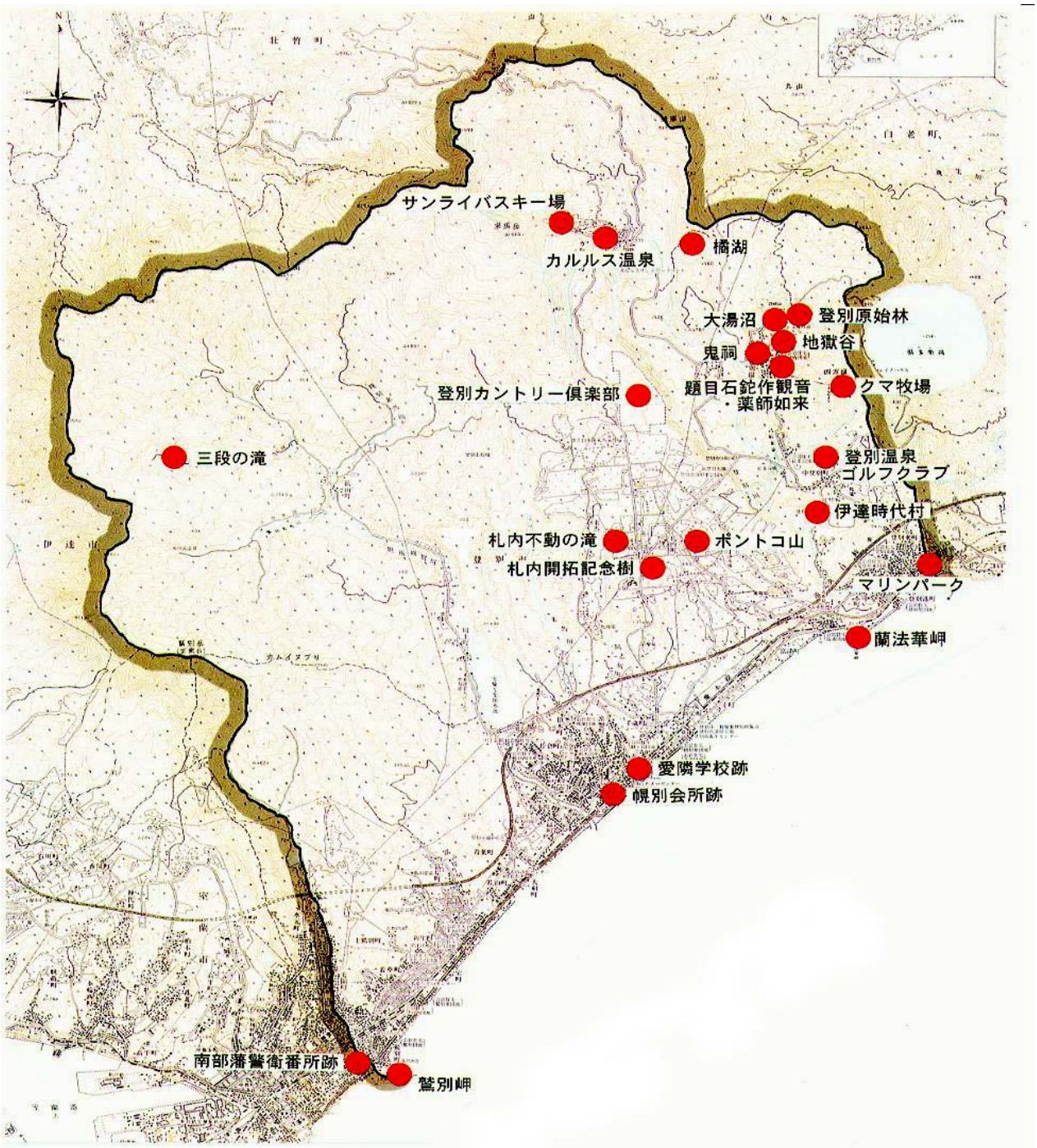
また他にも開拓の歴史、歴史的遺産、伝統芸能等も多く存在している。

□都市部の観光レクリエーション資源

種　別	名　　称	主　な　内　容
歴　史	南部藩警衛番所跡	江戸時代末期、ロシアの南下に対し幕府の命令を受けた南部藩が箱館からホロベツまでの海岸警備に当たり、鷲別岬に警番所設けた。
	愛隣学校跡	明治19年函館から往来した英国人ジョン・バチラーの力添えにより私立愛隣学校が開設されキリスト教伝道の拠り所となった場所。
	幌別会所跡	蝦夷地が幕府直轄になるに伴い、幌別場所請負人岡田半兵衛により会所も改築され、幌別郡司法行政を行った所。
	三大史蹟	温泉周辺にある題目石鉈作観音、楽師如来。
	鬼祠	毎年８月に行われる「地獄まつり」の主役である赤鬼像、青鬼像に守られた小さな杜があり、江戸時代から伝わる「念仏鬼像」が安置されている。
自然・名所	欄法華岬	長い尾根が断崖となって太平洋に突き出て、南東の風をさえぎり、登別漁港の完成までは舟入潤として利用されていた。
	鷲別岬	室蘭市との境界線がこの岬を起点としている。
	三段の滝	岩肌が上・中・下の３段に分かれ、滑るように流れている。
	橘湖	カルルス温泉の近くにあり、周囲1.5km、面積9ha楕円形の湖で、霧に囲まれることの多い秘境の湖である。
	大湯沼	そこから湧出する温泉に沢水が流入したもので水面から湯気が立ち上がっている。周囲1km、深さ22m、温度が40°～130°もあり、この様な大規模な湯沼は世界的にも珍しく周辺では温泉湧出地特有の植物群落が観察できる。
	登別原始林	温泉地帯であり海に近いことから暖地生の植物が豊富で、ミズナラ、イタヤカエデなど樹木60種、草木類110種が知られている。
	地獄谷	直径450m、面積11haに及ぶ爆裂火口の赤茶けた岩肌を見せ、一体は強烈な硫黄の臭気に囲まれている。
レクリエーション	国設カルルス温泉 サンライバスキー場	標高1,040m。7コースにリフトは3基で上質の雪が人気を呼び、初級、中級者共に楽しめるゲレンデ。
テーマパーク	クマ牧場	200頭余りのヒグマを飼育する世界一の規模、人がオリの中に入ってクマの真ん中に出る「人のオリ」が人気。
	登別マリン パークニクス	中世ルネッサンス様式の城郭をモデルに造られた城の中では寒流、暖流のアクアトンネルから魚群の姿を見ることができる。イルカ・アシカショーが開催されている。
	登別伊達時代村	伊達藩が活躍した江戸時代を再現した、芸能イベントランド。

表1-6.都市部の観光レクリエーション資源

図1-29.札内・来馬地区の観光レクリエーション資源及び施設の分布（のぼりべつ自然景観マップ）

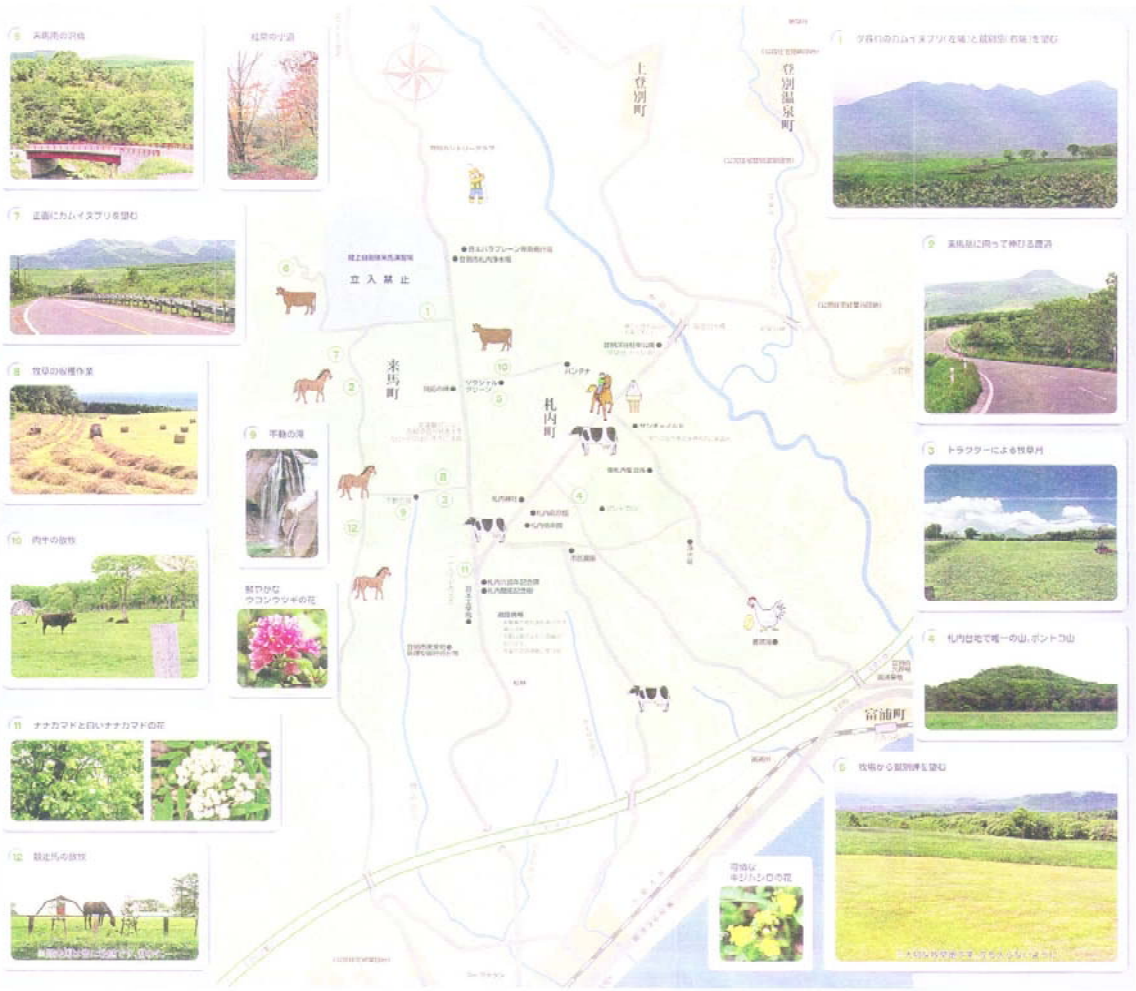


□農村部の観光レクリエーション資源

種　別	名　　称	主　な　内　容
歴　史	札内神社	
	札内六拾年記念碑	開拓60周年を記念し、日本工学院北海道専門学校の近くの道路沿いに建立されたもの。
	札内開拓記念樹	札内入植以前からあったミズナラの大樹で、当時、魔よけ家内安全を祈願する神木として尊んでいた。
自然・名所	ポントコ山	札内原野の中にぽこんと高くなった標高224mの小山で火山活動によって生まれた登別最古の山。
	札内不動の滝	高さ20mほどで山の中腹より鉄砲水のように地下水が噴き出している。和歌山県高野山明泉院より不動名王をゆずり受け祭っている。
レクリエーション	登別カントリー倶楽部	18ホール、7035ヤード、パー72、メンバーコース
	登別温泉ゴルフクラブ	9ホール、3008ヤード、パー36、メンバーコース
テーマパーク	登別伊達時代村	伊達藩が活躍した江戸時代を再現した、芸能イベントランド。
その他	札内高原館	旧札内小中学校を改修し、地元で生産される牛乳や肉類を使い、チーズ、ソーセージなどの加工研究が行われている。また、体験学習や定期的には試食会・交流会、その他イベントの開催も市街地住民にも呼びかけて行っている。
	乗馬のバンダナ	乗馬体験コース アラブ、ポニーの乗馬を初心者から上級者まで楽しむことができる。会員制度もとっている。
	サンチャイルド	酪農家が経営するソフトクリームの店。食品加工体験 農林漁業体験、乳搾り、バター作り、馬ソリ、犬・猫・にわとり・うさぎ・ポニー・羊など小動物とのふれあい体験等 札内町・工学院前の道路に看板が出ている。ここは、登別温泉との提携により、温泉に訪れた外国人などもよくここを訪れている。
	ソーシャルグリーン	農家が経営する和牛焼き肉レストラン。牧草地が広がるのんびりとした農村の雰囲気の中で焼き肉を楽しめます。
	市民農園	40区画との農園とトイレ・水道が完備されており、農作業を通した自然とのふれあいや高齢者の生きがいづくり、親子のふれあいの場として利用されている。

表1-7. 農村部の観光レクリエーション資源

図1-30. 観光レクリエーション資源及び施設の分布（札内ファームタウン計画報告書）



□イベント･その他

イベント	元旦裸みこし	年越しを威勢の良い裸みこしで楽しむ。
	登別連こいのぼり マラソン大会	3,5,7kmのコース、参加者は幼児から一般まで。
	豊水まつり	ふれあい広場でのゲームコーナー､豊水トントン大群舞。
	クッタラ湖灯ろう流し	法要、灯ろう流し子供花火大会。
	地獄まつり	前触太鼓､鬼踊り大群舞大行列､鬼みこし暴れねりこみ。
	湯まつり	２月厳寒をついて湯鬼かぐらが踊り、練り歩く壮大な催し。
その他	郷土芸能	幌別鉱山獅子舞、札内神楽獅子、駒おどり、湯鬼神かぐら、鷲別獅子舞、北海太鼓、熊舞、子宝もちつき舞。

表1-8.登別市におけるイベント･その他

以上のような登別市の観光・レクリエーション資源及び施設の分布は、次の図に示したとおりである。

⑤生活環境整備の現状と動向

A. 交通

全　市

登別市は市街地がいくつかの地域に分かれているため、求められる役割に応じて４つの種類の道路に区分し、地域間の連携・交流・機能分担のための道路ネットワークの形成を図っている。

当市には自動車専用道路として、北海道縦貫自動車道が横断し、東西２つのインターチェンジがあり、旭川、小樽、札幌、長万部(国縫)まで結んでいる。広域幹線道路として国道36号が自動車専用道路と並行して走っており、北側の山あいを通る道道洞爺湖登別線と合わせ、区域となる交流や物流の主軸となっている。地区間連絡道路として道道上登別室蘭線などの登別市の地域間をつなげる道路は、地域間の連絡路となる他、都市域における防災軸にもなる。道道上登別室蘭線、道道洞爺湖登別線、札内来馬からカルルス温泉を結ぶルートや登別温泉から倶多楽湖を周回するルートは観光道路としての機能をもっている。

これら４つの種類の道路に各市街地内のコミュニティー道路などをめぐらし結んでいくことによって道路ネットワークを形成している。

尚､市街地内の幹線道路は都市計画道路として計画的に整備されている。

	路線数	実延長(m)	舗装延長(m)	舗装率
国　道	1	16,471	16,471	100.0 %
道　道	9	67,307	66,532	98.8 %
市　道	1,187	309,195	169,479	54.8 %

表1-9.道路整備状況(登別市管理課) H12年度末現在

公共交通機関としてのバスは登別温泉を拠点に札幌、千歳空港、苫小牧、室蘭、洞爺湖を結ぶ都市間高速バスや路線バスが通っている。

鉄道はJR室蘭本線が国道36号と並行して走り、ほとんどの特急が止まる登別駅、Ｌ特急が止まる幌別駅など４駅ある。その他、千歳空港へはJR、国道36号等で30分～１時間以内で結んでおり、航空機や船ぱくでの交通とも結ばれている。

農村部

かつては路線バスが運行されていたが、現在は廃止され、日本工学院の生徒の送迎専用バスが運行されているのみである。一般住民も利用可能となっている。

B.情報通信

全　市

電話の普及はかなり進んでおり、INSネットの普及も進んでいる。テレビは鷲別、幌別、登別に中継局があり、難視聴の解消を図っている。

総合計画では、地域独自の情報発信を行うため、コミュニティＦＭ放送局の開局を検討する、としている。

農村部

農村部では、ＪＡや市役所等、農業情報等のやりとりは電話（FAX）で行われている。市では、全農家のうちに電話（FAX）の必要な農家には補助をしており、市の需要は全て満たされている。

C.環境衛生

【ごみ、し尿処理】

全　市

市では下水道の普及率の向上と、下水道が設置されていない地域では、合併浄化槽の設置を奨励している。また、下水道の供用開始１年以内には市より補助を出して水洗化の普及も図っている。

一方、下水道が普及されていない約23,500人は、し尿を収集し、し尿処理施設で処理しているが、施設は稼働後35年を経過し、老朽化が著しい。年々下水道の普及とともに処理場が減少していることから、当面、施設の更新時期まで臭気対策を講じながら、補修整備を進めることにしている。

ごみ処理に関しては、ごみ減量化推進事業として、ごみの再資源化の取り組みを平成11年より開始しており、平成12年４月より供用を開始した「クリンクルセンター」（対象：登別市民、白老町民）を拠点に、ゴミの分別収集と資源ごみの有効利用を図っている。

平成12年からは、ごみの分別収集を徹底しており、ごみ処理の有料化（資源ごみ、有害ごみは無料）を図っている。同じく平成12年４月より、千歳町に最終処分場の供用を開始し、ごみ処理についての万全の体制を整えている。

農村部

農村部では、下水道は未整備のままとなっている。地域住民の整備要望も多く、現在市では、合併処理槽の整備と合わせて検討中の状況である。

ごみ処理は全市のごみ処理体制の下、農村部に於いても適正な処理が行われている。

燃やせるごみ	週２回	ステーション排出	有料
燃やせないごみ	月２回	ステーション排出	有料
資源ごみ（缶･びん･ペボトル）	週１回	ステーション排出	無料
資源ごみ（紙パック）	随　時	公共施設又は店舗等の回収ボックスへ排出	
粗大ごみ	年２回	個　別　収　集	有料
※ 収集申し込みは、電話により行う			
有害ごみ	月２回	ステーション排出	無料
※ 別袋（透明又は半透明の袋）に有害ごみと表示して、燃やせないごみの日に収集			

表1-10. ごみの分別形態と収集方法（登別市環境資源課）

【水道施設】

全　市

昭和37年に供用開始した本市の上水道は、平成12年度における普及率が98.58%となり、ほぼ給水区域全域に上水道が普及したといえる。

農村部

札内・来馬を主体とする農村部では、整備率は100%である。

年 度	上　水　道			年間総給水量	１日平均給水量	有収率
	給水区域内人口(人)	給水人口(人)	普及率(%)	(m³/年)	(m³/年)	(%)
平成７年	56,881	54,950	96.61	4,799,016	13,147	85.38
平成８年	56,649	55,305	97.63	4,886,645	13,388	85.55
平成９年	56,228	54,972	97.77	4,797,842	13,145	86.70
平成10年	56,301	53,917	95.77	4,692,719	12,857	83.45
平成11年	56,024	53,655	95.77	4,704,180	12,853	83.62
平成12年	55,179	54,398	98.58	4,774,954	13,082	83.65

表1-11.給水戸数・人口及び給水実績(登別市水道部)

【消防施設】

全　市

大正２年に登別温泉・登別に青年会消防部、翌３年には幌別・鷲別地区に私設消防組合が設立され、本市の消防組織の発足となる。昭和40年には政令指定により登別町消防署が設置された。

施設としては、水槽車７台、ポンプ車６台、化学車２台、救急車３台、はしご車１台等を有している。

水利施設は、防火水槽 73ヶ所(40㎡以上 59ヶ所、40㎡未満 14ヶ所)、消火栓 509基(公設 494基、私設 15基)を有し、市民の救命はもちろんのこと、有珠山噴火時等、近隣市町村との連携を図った広域的消防活動を行っている。

農村部

札内・来馬では水利施設は未整備のままとなっている。消防署では、消火栓の整備を構想しているが、給水源に難があり、現状では近隣のポンプ車を集めて対応する措置をとっている。

【公営住宅】

全　市

平成12年に新設された公営住宅は、市営住宅 45戸、道営住宅 40戸に対し、入居申込者数はそれぞれ、128人、139人となっている。

老朽化が見られる公営住宅の改善を図り、また、高齢者・身障者に配慮した住宅システムの導入を目指す。

公営住宅については、市営桜木団地の三期工事に着手するとともに、市営幌別東団地八棟の屋根葺替や外壁塗装・植栽など景観改善事業を実施する。また、道営登別東町団地の建設促進を図っていく。

農村部

農村部に於いては整備されていない。必要な時は市街地の公営住宅に移住する方式となり、問題はない。

【集会施設・体育施設・文化施設】

施設の整備状況は下表の通りである。

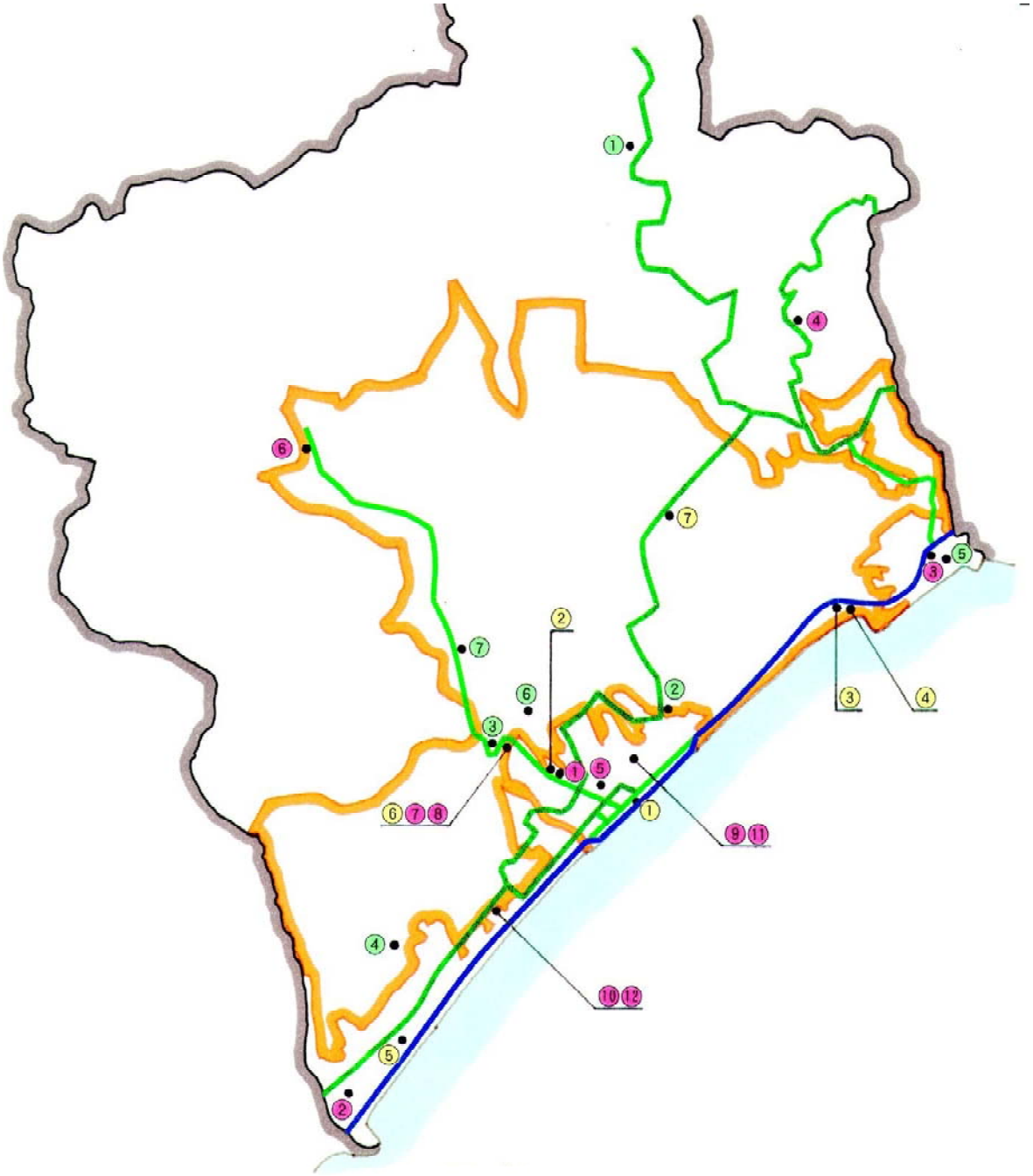
	農村部の施設	都市部の施設
社会教育施設	・ネイチャーセンター(鉱山町) ・郷土資料館 ・文化伝承館	市民会館～1箇所 公民館～3箇所 青少年会館～4箇所 図書館～1箇所 婦人研修の家～8箇所 陸上競技場～1箇所 総合体育館～1箇所 水泳プール～2箇所
児童福祉施設		肢体不自由児通園施設～1箇所 授産施設～1箇所
老人福祉施設	・老人憩の家「偕楽園」(札内町) ・老人憩の家「東札内集会所」(札内町) ・養護老人ホーム「恵寿園」(川上町)	養護老人ホーム～1箇所 老人憩の家～40箇所 老人趣味の作業所～1箇所
コミュニティ施設	・札内高原館(札内町) ・富浦会館(富浦町)	ふれあいセンター～ 1箇所 生活館･会館 ～ 2箇所 つどいセンター ～ 1箇所 総合福祉センター ～ 1箇所
都市公園・緑地	街区公園 渓楓園 (カルルス町) 地区公園 岡志別の森運動公園 (千歳町) 総合公園 川上公園 (桜木町) 〃 亀田記念公園 (富岸町) 〃 登別ビーチパーク (登別東町) その他の公園 望洋公園 (柏木町) 〃 川上自然公園 (川上町)	街区公園 ～ 34箇所 近隣公園 ～ 3箇所 都市緑地 ～ 1箇所

※老人憩の家 ： 老人憩の家は、地域の老人クラブの活動の場として各種サークル活動や健康増進、レクリエーションなど身近なふれあいの場としてH14.4.1現在で42箇所が設置されており、利用されている。また、町内会等地域住民のコミュニティーづくりの場として、幅広く活用されている。

※老人趣味の作業所 ： 老人趣味の作業所は、老人の創造性を高め老後の生きがいを豊かにするため、昭和59年に設置され、現在22人ほどの会員がおり、陶芸を通して生きがいづくりを勧めている。

表1-12.施設状況(登別市統計データ他)

図1-31. 主な公共施設等位置図



● 社会教育施設

1	市民会館
2	鷲別公民館
3	登別公民館
4	登別温泉公民館
5	図書館
6	ネイチャーセンター
7	郷土資料館
8	文化伝承館
9	陸上競技場
10	総合体育館
11	市民プール
12	市営水泳プール

● コミュニティ施設

1	鉄南ふれあいセンター
2	富士会館
3	富浦生活館
4	富浦会館
5	若草つどいセンター
6	総合福祉センター「しんた21」
7	札内高原館

● 公　園

1	渓楓園
2	岡志別の森運動公園
3	川上公園
4	亀田記念公園
5	登別ビーチパーク
6	望洋公園
7	川上自然公園

登別市では、平成４年１月に「公共施設の整備方針」を策定し、公共施設の維持補修や新規整備に関する基本的な方針を定めている。

集会施設は、別表「配置基準」により整備を行うことにしている。

また､体育施設や社会教育施設も基本的に既存施設の活用を図る方向で整備の方針を定めている。

※「公共施設の整備方針」は、公共施設の維持補修や新規整備に関する基本的な方針として、平成４年１月、住民説明会や登別市行政改革懇談会の審議を踏まえ策定した。市は、本方針を道標として各般の施設の整備を進めてきている。

ア. 新たに施設を設置する場合には、※表「配置基準」により整備を行うこととする。この場合には、複数の町内会等が該当施設を自主的に管理する。

イ. ※表「配置基準」により、中規模施設を新設する場合には、地域内の小規模施設は廃止する。ただし、廃止する施設を自主的に管理することを希望する場合にあっては、一定の補修・修繕を行った上でこれを貸与する。

ウ. 中規模施設が新設されるまでの間は、地区内にある既存の小規模施設は従前の通りとし、建替え及び増改築は原則として行わない。

エ. 市が直接管理運営する小規模施設は廃止する。ただし、廃止する施設を自主的に管理することを希望する場合にあっては、イ. と同様とする。

※表「配置基準」

区分		規模	利用範囲	世帯・人口	備考
中規模施設	Ａ型	600㎡	半径１km程度 単位・複数の 連合町内会	おおむね 世帯 1,500以上～ 人口 5,000以上～	地域コミュニティセンタ規模
	Ｂ型	300㎡	半径１km程度 複数の町内会	おおむね 世帯500以上～1,500未満 人口2,000以上～5,000未満	富士会館規模
小規模施設		150㎡	半径500m町内会	おおむね 世帯100以上～500未満 人口300以上～1,500未満	老人憩の家規模 既存利用施設(集会等の用に供する施設を含む)の利用範囲内(半径500m程度)であっても、この施設の利用対象者数の大半(単位は町内会で世帯100以上かつ人口 300以上)が地理的条件により往路500mをこえる場合も含む。

⑥社会組織と地域の運営の現状と動向

【自治的組織】

登別市では、日常生活に密着するコミュニティ活動は、市内にある９９の町内会により行われている。これらの町内会は各々１１の各地区連合会に属し（４町内会は未加入）、更にこれらの連絡調整を図る登別市連合町内会が設置されている。

町内会活動は、街路灯・児童遊園地の設置や維持補修、公園・広場の清掃管理、集会施設の維持管理、ごみステーションの管理等が行われている。この他札内・来馬町内会では道路清掃（巡視、異状発生時の連絡、草刈り）も行っている。

また、町内会の主な行事の一つとして敬老会や「愛の一声運動（一人暮らし老人等を見守り孤独感を解消する）」町内会にある子供会が主催するこいのぼり、マラソン、カルタ大会、盆踊り等が行われている。

各地域での生活に密着する施設の整備等についてもこれらの町内会を通し市に要望される仕組みとなっている。

町内会名	世帯数	班数	備考	町内会名	世帯数	班数	備考	町内会名	世帯数	班数	備考
登別温泉地区連合	**423**	**35**		**中央地区**	**2,460**	**199**		**富岸地区**	**1,338**	**83**	
登別温泉朝日	26	2		新栄	23	2		大和	72	6	
登別温泉湯の滝	55	4		千歳	95	7		汐平	124	12	
登別温泉湯の花	83	5		千歳団地	60	7		若葉	209	20	
登別温泉あかしや	42	4		緑ヶ丘	420	35		富岸	513	15	
登別温泉さくら	30	5		南千歳	273	18		富浜	360	24	
登別温泉見晴	32	5		ニナルカ	94	6		はまわし	60	6	
登別温泉青山	71	4		常盤	602	55		**新生地区**	**1,739**	**109**	
登別温泉紅葉谷	84	6		中央栄	157	13		新生	420	31	
登別地区連合	**1,956**	**191**		中央町駅前	56	4		新生団地自治会	84	9	
中登別	156	14		中央町十字街	155	11		新生町２丁目町会	246	14	
登別東町１町会	135	12		中央町三丁目	110	11		新生北	506	25	
登別東町２町会	214	21		中央新生	210	16		新生町３丁目町会	125	6	
登別東第三町会	307	31		中央	50	6		千代の台	81	7	
登別東町第４町会	313	39		中央東	155	8		新生町望洋	277	17	
登別東町第５町会	263	23		**幌別西地区**	**3,589**	**304**		**鷲別地区**	**1,818**	**137**	
東町団地会	54	9		柏木	721	58		はまなす	210	11	
登別本町会	230	16		柏木団地	277	36		ありあけ	90	8	
登別本町２町会	284	26		曙	180	13		鷲別１丁目	142	16	
未加入	210	19		プレハブ	172	11		鷲別２丁目	248	21	
カルルス温泉	30	1		新和会	720	91		鷲別３丁目	320	29	
新登別	25	1		山手	64	4		鷲別町４丁目	315	19	
紀文台	9	1		新川	195	10		鷲別町６丁目	230	18	
富浦町会	146	16		新川第二	521	29		ひまわり	263	15	
鉄南地区連合	**1,123**	**103**		香風町会	185	18		**美園・若草地区**	**3,319**	**232**	
すずらん団地	107	6		望洋団地	61	5		若草	1,181	61	
幌別第一	70	5		片倉	380	22		若草第二	581	36	
幌別第２	70	7		西団地	102	6		若草町緑ヶ丘	121	8	
幌別第３	66	5		鉱山	11	1		美園南町会	451	43	
幌別鉄南第５	79	8		**青葉地区**	**1,577**	**137**		旭ヶ丘	196	17	
幌別鉄南第６	46	4		来福	144	14		美園町会	605	55	
幌別鉄南第７	240	16		さくら団地自治会	95	10		美不二町会	98	6	
幌別鉄南第八	445	52		桜木団地	163	8		桜ヶ丘町会	86	6	
札内・来馬地区	**49**	**6**		西川上	486	69					
東札内	13	2		新登津	209	10					
中札内	10	2		緑町団地	42	4					
西札内	11	1		青葉町南高	17	1					
東来馬	15	1		若緑	163	7					
				あかしや	171	8					
				若山団地	87	6		合計	19,601	1,555	

表1-13. 平成13年町内会一覧（登別市）

【生産関連組織】

既存の組織にとらわれず、新しい消費者ニーズに対応した活動を組織的に推進していくことが必要であるから、その支援体制を確立しておく必要がある。

表1-14. 生産関連組織(登別市)

組　織　名	現 在 の 活 動 内 容	構成人員
登別市	協議会事務局、各団体基幹・受益者との連絡調整、施設管理	549名
登別市農業委員会	農地の利用調整、農業生産・農業経営・農民生活調査研究及び改善	15名
伊達市農業協同組合登別支所	資金の融資などの信用事業及び農家への保健福祉としての共済事業と営農資材販売	9名
伊達市農業協同組合女性部登別支部	各種講習会、研修会の開催 市場や関係機関関連企業の視察 支部単位による研修会の実施 日胆地区、全道の女性部大会への参加 先進地視察	21名
登別後継者クラブ会	各種協議会、研修会への参加、交流会の開催 農協主催行事への支援	11名
登別消費者協会	消費者意識の啓発、物価調査の徹底と諸調査研究、食品、商品の安全確保と監視、地場産品利用の促進、消費生活相談の充実と悪質商法の根絶、省エネルギー促進の促進と再生品の利用、高齢化社会への取り組み	一般会員 199名 賛助会員 19名
登別温泉旅館組合	観光・旅館業に関する税制の調査、研究。清潔で安全な温泉郷づくりへの取り組み。周辺資源の活用とサービスの向上	15事業所
(社)登別観光協会	観光客誘致宣伝の実施。広域観光宣伝及び共同宣伝の実施。温泉街及び周辺道路の美化清掃の実施。花壇整備、植樹、花いっぱい運動の実施	136事業所
登別商工会議所	市内商工業者の総合的な改善発達を図り、社会一般の福祉の増進に資し、もってわが国商工業の発展に寄与する	1,025名
登別商工会議所青年部	地域活性化に向けた経済活動の学習、先進都市視察等の研修、研究	40名
登別市青年会議所	合併協議会設置に向けての署名活動、鬼ッズサミットの開催支援、心の教育に関する事業の開催	26名
西胆振地区農業改良普及センター	栽培技術・生産の市道、助言	18名
いぶり農業共済組合西支所	家畜の診断、事故発生時の保障	15名
登別市農業振興研究会	各専門部会(下記)の連絡調整	—
農畜産物加工研究部会	農畜産物の加工研究及び消費者ニーズの調査、販路の研究、起業家の研究	—
農用地有効利用研究会	生産物の低コスト化のための研究指導、農業者後継クラブの視察研修の連絡・調達	—
農畜産物低コスト研究部会	ソーセージ、アイスクリームの加工・研究、試食会、体験学習等イベント参加	—
乳製品加工研究会同好会	シーセージ作り	10名
ティータイム	チーズ作り	12名
アイスクリーム同好会	アイスクリーム作り	6名

【社会教育組織】

ますます重要視される生涯学習やスポーツを振興していくためには、多くの組織活動が必要となる。また、生涯学習は、自主的な組織の活動を通じて学ぶ事ができるものである。

その活動は各種イベントの企画や参加が主であり、各組織のボランティアによって成り立っているため、組織の円滑な運営に対して支援できる体制づくりが必要である。

表1-15. 社会教育関連組織（登別市）

組　織　名	現 在 の 活 動 内 容	構成人員
文化協会	文化団体間の交流や文化祭りの開催	2,279名
登別レクリエーション協会	市民ハイキング、茸刈り大会、市民文化祭他	70名
登別市婦人団体連絡協議会	市内の各婦人会（部）、その他各種団体との連絡調整と会員の資質向上を図り、明るく住み良い郷土の発展に寄与する。	1,200名
登別青年会議所	・合併協議会設置に向けての署名運動 ・キッズサミットの開催 ・心の教育に関する事業の開催	26名
おにたま協議会	・月１回の定例会（まちづくり勉強会） ・ＩＴ講習会 ・市内各イベント団体との交流	20名
のぼりべつ男女平等等参画懇話会	・月例会の開催 ・平等社会実現に必要な学習、調査研究及び各種研修事業など	14名
市民憲章推進協議会	・市民憲章だよりの発酵 ・花いっぱい運動の推進 ・まちづくり市民のつどい開催 ・葬儀の簡素化運動	33名 （役員）
鉄南マチづくり推進委員会	・ふれあい交流イベントの開催 ・地域要望の集約 ・他団体活動の協力他	1,000名
登別地域大学	・講演会の開催（年５回） ・身近のテーマについての勉強会	80名
登別まちづくり促進期成会	・ふれあい交流イベントの開催 ・地域要望の集約 ・他団体活動の協力他	1,500名
幌別川を育てる会	・サクラマス稚魚の放流 ・キャッチアンドリリースを広く訴える ・ネイチャーフォーラムの開催等	200名
登別市スポーツ少年団本部	・単位少年団の指導や指導者の育成 ・交流会の開催 ・姉妹都市スポーツ交流の運営	
登別市体育指導委員会	定例会、総務部会、研修部会、指導部会、女性部会、指導・派遣 他	15名
ふるさと広場実行委員会	「ふるさと登別」についての総合的な学習、自然体験活動など	14名
登別市社会福祉協議会	・各種の福祉事業推進や相談業務・指導 ・イベントの開催	
登別市ＰＴＡ連合会	・登別市内各学校ＰＴＡ相互の連絡提携 ・ＰＴＡ研究大会の開催 ・学校教育、青少年健全育成、成人教育の研究とその対策 ・教育関係緒機関との連絡提携 ・教育公費の確保充実	3,898名

組　織　名	現 在 の 活 動 内 容	構成人員
登別市子ども会育成連絡協議会	こいのぼりマラソンやカルタ大会等イベント開催など地域の連携や子どもの健全育成活動	3,500名
のぼりべつ物産会	登別温泉を代表する湯の華や海産物木工品など、多種多様な製品のＰＲ	22名
登別グリーン・ピア商店会	地域内において商業の発展と振興を図り、地域住民の生活の安定と会員相互の親睦を旨とする。	62名
鷲別商店会	鷲別地区内における商業の総合的な発展を図り、地域住民と会員相互の親睦に寄与	22名

その他、文化協会加盟団体 37団体、体育協会加盟団体 21団体、ボランティアセンター登録団体 34団体等がある。

⑦行財政の現状と動向

財政状況については、地域経済の低迷により市税収入が減少することに加え、国の構造改革による地方交付税制度の改正の影響を受けるなど、従来にも増して厳しい環境にある。

基準財政需要額は年々増加しているが、基準財政収入額は逆に減少傾向にある。財政力指数で見ると、標準的な値の範囲ではあるが、年々減少傾向にあり、財政力の余裕がなくなりつつある。

区　　分	平成８年度	平成９年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
基準財政需要額	8,678,782	9,071,104	9,416,152	9,641,754	9,748,973
基準財政収入額	4,556,119	4,657,799	4,667,268	4,502,319	4,488,549
標準財政規模	10,131,815	10,548,024	10,906,135	11,069,097	11,176,726
財政力指数	0.527	0.526	0.512	0.492	0.475

(注)財政力指数については、３ヶ年平均数値である。

・標準財政規模：　通常の場合における行政活動に必要な経常一般財源の総量を示す。

・財政力指数　：　行政の対価として必要とする経費に充てるべき財源の調達能力を表す指標。

・財政力指数　＝　基準財政収入額/基準財政需要額

表1-16.財政指標(登別市財政課)

⑧交流連携の現状と動向

登別市は、農協が近隣の室蘭市、伊達市と合併しており、第三次北海道長期総合計画ではトライアングル共生都市圏として位置づけられ、行政・経済・文化・スポーツ等さまざまな分野で交流・連携が緊密に行われている。

姉妹都市として宮城県白石市との交流も毎年行われている。これは、明治２年、白石城主・片倉家一門が現在の登別市である旧幌別村に集団入植し、登別市の礎を築いたことに始まる。昭和58年姉妹都市提携の調印をし、登別・白石姉妹都市推進協議会が中心となり、文化、スポーツ、物産など多彩な交流を行っている。主なものは、こけし絵づけ教室、絵画作品交流展示会、ふるさと豆記者訪問事業、ふるさとを語る交流事業、姉妹老人クラブ交流事業などである。

登別出身で市外に転出した人たちのうち、札幌のぼりべつ会(110名程度)、東京登別げんきかい(570名程度)では常に交流が図られている。これは札幌圏や関東地方に住む登別出身者などの会で、情報交換や登別市民との交流が図られている。他に登別市にゆかりのある人をふるさと大使(40名程度)に任命し、登別のＰＲや情報収集を委託している。

その他、札内・来馬を主とした農村部と都市部との交流として以下の施設やイベントが挙げられる。

◎産業フェア

実行委員会（事務局：商工会議所）を設立し、９月下旬頃の２日間、地域に根ざした産業の育成と振興を図るため「産・学・官」の連携を中心に地場企業の技術や生産物、地元特産品を広く市民に紹介している。また、室蘭・伊達・白老地域などの産業の紹介を併せて行い、見聞と交流の場を提供し広域地域の住民の交流促進、企業のビジネスチャンスの場の提供、各種の体験コーナーを設けて市民の交流や親睦を図り、地場産品の紹介と試食・試飲・即売を行っている。参加者約１５，８００人

◎つけものフェスティバル

つけものフェスティバル実行委員会・教育委員会共催で、１月上旬、市民会館などで、市内の女性交流を促進する場として、地域活動に積極的に関わる女性を増やし、育てていくために、かす漬け、かすみそ漬け、魚漬け、ぬか漬け、アイディア漬け（１週間以上漬けたもの）などのつけものコンクール、漬物の試食、地場産品の販売などを行っている。

⑨その他特記すべき事項

【生活環境基盤】

【農業生産基盤】

１．地域の情勢と診断

（2）地域診断

(2) 地域の診断

１）住民活動の状況

札内･来馬地域を主体とした農村地域における住民活動としては､現在精力的に取り組まれている札内高原館の活動が第一に挙げられる。

平成12年度、登別市では札内高原館を整備し、農業振興研究会が主体となって農畜産物の加工研究を進めるとともに、ソーセージやバター作りなどの体験学習を実施してきた。特にソーセージ体験は再挑戦グループがあらわれるなど、ファンも徐々に増加してきた。ソーセージ部会が96回、チーズ部会が17回、アイスクリーム部会が46回、計159回で、延べ503人が参加をしている。

平成13年度、前年度に引き続き加工技術の向上に努め、味や食感など加工研究に力を注いだ。２月末現在でソーセージ部会が63回､チーズ部会が21回､アイスクリーム部会が39回の合計123回で、延べ366人が参加している。製品モニターや試食会のアンケート調査を集約、検討し、研究開発に生かしてきた。また、食品衛生に関する意識の高揚を図るため、講習会の開催や管理マニュアルの作成により、製造施設へ向けてのルールづくりを進めた。体験学習はソーセージづくりが主体で、自分でつくった手づくりのソーセージが食べられるということから、非常に好評を得、中には定期的に受講するグループがあるなど、13年度２月末現在で講習回数は前年に比べ約３倍にふえている。回数では26回になっている。モニターによる原材料分の収入実績は、平成12年度は90万3,600円、13年度２月末現在では95万5,010円で、若干ではあるが伸びている。

平成14年度、特徴ある製品の研究開発、製造体制や販路の確立、あるいは収益の見込みなど、販売に必要となる研究を進めるとともに、試食会や各種イベントを通じて、価格、味、見ばえなどといったさまざまな意見や情報を収集し、商品化に向けてのノウハウを蓄積してきた。平成15年度以降をにらんだ起業化に向けた対応では、農業振興研究会で製品としての完成度をより一層高めるため、食品加工研究センターや北海道酪農学園大学との連携を深めながら、白糠町で開業したばかりの民間のチーズ工房と足寄町の第三セクターによる売店を併設した乳製品工場の２カ所を訪問し、企業としての経営方法などのノウハウを勉強するための先進地視察を実施。その中で製造技術とあわせて会社の立ち上げや資金調達などのノウハウについて研修し、同様の視察を重ね第三セクターではなくあくまでも民活による起業化をめざしている。ゴーダチーズやモッツァレラチーズ、アイスクリームなどの乳製品とソーセージの加工研究は、これまで地元の農業者や関係団体などを対象とした試食を通じおおむね好評で、研究会としてはおおむね完成に近い。

なお、体験学習事業は、工夫を凝らしながら今後も実施する。

また､町内会活動としては､道路の清掃･草刈り等の身近な環境美化活動を町内会で行っている。

２）まちづくりへの期待

登別市の農村部の住民は、市街地へ車で５～10分で行ける至近距離に居る。このため、市街地を中心に施設の充実が図られていることから教育・医療・福祉・行政・文化・スポーツの分野では、これらに依拠して生活できており、むしろ身近な生活の問題として、酪農・畜産の振興や道路・排水・下水道・環境美化に対する関心が強い。

都市部の住民は、身近に体験する事の出来ない農業や優れた自然とのふれあいを農村部に求めている。

Ａ．地域住民

地域住民･農家への意向調査を参考に、まちづくりへの地域住民の期待は、およそ次のようにまとめられる。

●都市住民を招き入れて地域に活力をもたらすことを強く望んでいる。

市民農園やペンションの整備、観光・イベントの充実など都市住民を地域に招いて、活発な交流を行うことにより地域を改善したいという声が多い。

●生産基盤の整備と生活環境の整備が望まれている。

農業者は地域改善の方策として、地域の産業基盤である農業の、農道・排水路・ほ場などの生産基盤を整備する必要があると考えている。また、丘陵地に位置し、傾斜地が多い地域であることから、危険箇所の指摘も多く、排水路や生活道路、自転車道・歩道などの生活環境の整備が必要であると考えている。

●農園付き住宅や下水道の整備が望まれている。

今後、地域で整備して欲しい施設として、多くの人が、「農園付き住宅」と「下水道」を挙げている。「農園付き住宅」は、地域の土地の有効利用策として、若い都市住民に利用してもらいたいと考えられている。

「下水道」はこの地域一帯が未整備であり、将来この地域に都市住民を招き入れる上でも必要であるという認識による。

●札内高原館を地域の核として考えている。

多くの人が、札内高原館で行われている農畜産物の加工研究を地域に密着した核として捉え、地域ブランドの確立や販路の拡大を図るべきだと考えている。

●花いっぱい運動や清掃活動には参加してもよいと考えている。

地域住民が参加すると答えた活動は多岐にわたるが、その中でも地域の美化活動が一番多い。次いで自然保護活動とスポーツ・健康づくり活動となっている。

B．市街地住民

「札内ファームタウン計画検討会」や市民アンケート等から市街地住民の札内来馬地域を主体とした農村部の地域づくりについての考えは、次のようにまとめられる。

●札内の牧場・牧草地は登別市民にとって重要な景観上のシンボルである。

札内の牧場・牧草地は、山や川の自然的要素として、登別市の景観上のシンボルの一つとして挙げられ、絵になる風景として登別の大切な景観に位置づけられている。上登別から札内を見る景観がすばらしいという意見もある。また、市内の主要な山や海を見渡すことのできる貴重な眺望点としても位置づけられている。

●札内台地のロケーションを活かした整備が求められている。

札内台地は、登別温泉と洞爺湖温泉を結ぶ観光ルートの途中にあり、景観だけでなく、自然もすばらしい農業地帯である。自然と共生できるもの、新登別大橋の景観も活かし、五感全部が満足するような整備。あるいは農業とリンクしたもので、今の場所で地域との交流を深めるとともに農家が個々でもできる施設の整備が求められる。

具体的な提案として以下のような施設が挙げられた。

乗馬トレッキングコース、星の観察ができる拠点、天文台、自然を損なわない本格的なキャンプ場、食べたり遊んだりできる施設、サンチャイルドにレクリェーション施設を加えたような施設

●市民農園等の農業体験ができる場の整備を望んでいる。

地域一帯が農業地帯であるため、例えば農家が余った農地を市民に貸し出し家庭菜園を楽しめるような市民農園、農家の人に指導を受けられる市民農園の整備をしてはどうかという声が多い。また、田園住宅を作って野菜作り等をしたいという人がよく相談に来ることから、農園付き田園住宅の整備をしてはどうかという意見もある。

一方、札内・来馬地域は酪農畜産地帯であり、これを活かし、観光客や市民が家畜の世話や乳しぼり、チーズ作りやソーセージ作り等の体験が日帰りででき、食事や家族団らんのできる農業体験の場を整備してはどうかという意見もある。

●地域の特産品開発を望む声が多い。

登別市には特産品がないことから、自然を生かし、有機農法などによる地場産品を使った地域特産品を作るべきだという声が多い。これを、地元で水揚げされる海産物と合わせ、おいしいものやおすすめの食事を提供する店を出してはどうかという意見もある。

３）分野別（重点的）計画課題

登別市農業は、地域特有の気象条件（６月～７月の海霧の発生、６月～９月の大雨）と土壌条件（有珠系火山灰）により畑作が適さず、酪農・畜産に特化してきた。しかし、年々農家戸数、農家人口共に減少し続けており、著しい高齢化と後継者不足に陥っている。

地域住民の声としても、過疎化しつつある地域の現状に対する危機意識から、都市との交流による地域づくりへの期待は特に高い。

【問題点】

Ａ．生産

①. 乳価の低迷、農畜産物輸入の自由化、国内における産地間競争の高まり、狂牛病問題等状況は厳しく、農業所得が低迷している。

②. 地域の要望もあり、チーズ、ソーセージなど加工品製造に取り組んでいるが、商品化にこぎつけたばかりである。

③. 酪農・畜産以外の作目は土壌と気象条件から難しく、飼料作物以外の作目については試験栽培等の実績はない。現時点でいろいろな作目についての栽培の可能性を新たに研究したことはない。

④. 農地は丘陵地にあり、夏から秋の豪雨をたびたび受けているが、排水路や道路等の基盤整備が立ち後れ、農地侵食などの被害も起きている。

⑤. 規模拡大を目指す意欲有る農家は居るが、農地の流動化が進まず、効率の良い酪農経営ができない。

⑥. 自らの農業経営を見直し、効率的で安定的な農業経営を意識的に図ろうとする農業者が少ない。

⑦. 農業者の高齢化と担い手不足が深刻である。

⑧. 新規就農者の獲得や受け入れ体制が十分に確立されていない。

⑨. 規模拡大、家畜の糞尿処理、トレーサビリティーの徹底等やるべき作業が多くなっているが、担い手不足で労働時間にゆとりがなくなっている。

⑩. 狂牛病問題、牛肉の産地肉の偽造問題等が相次いで発生し、安全・安心・高品質な農畜産物の生産が消費者から求められている。

Ｂ．販売・流通

①. 札内高原館で生乳・肉の加工品研究開発を行っているが、市場にはまだ本格的に出されていない。

②. 国際的観光地「登別温泉」が至近にあり、ここには多くの観光客が訪れているが、販売面での関わりは弱く活用できていない。

Ｃ．観光・交流・地域づくり

①. 地域内外の住民とも、登別温泉に訪れる観光客を主体とした都市住民との積極的な交流を望んでいるが、恒常的に交流できる場がない。

②. 既設の市民農園はほ場が主体で、都市住民が快適に利用できる便所や休憩広場等の施設は未整備で不便である。

③. 自然に囲まれた草地、美しい景観、すばらしい眺望点と豊かな地域資源を擁しているが、活用されていない。

Ｄ．農村生活環境

①.排水路や道路、下水道などの身近な生活環境に関わる基盤の整備が未だ立ち後れている。

②.家畜糞尿処理の施設が未整備の所がある。

③.景観の美しい所であるが、林地や道路際、農家の庭先など必ずしも手入れは行き届いていない。

④.美しい農村環境を活かした遊休地の有効活用策が望まれている。

【課　題】

上記の問題点について整理し、分野別に課題として整理する。

Ａ．農業分野では、農業所得向上、高齢化と後継者不足、労働力不足の解消が大きな課題である。これを解決するには、地場産品に付加価値を持たした特産品の開発を進め、これらの製品をブランドとして確立し、これらの加工品製造も含めた地域農業の振興を力強く進めていく必要がある。

①地域の特産品の開発

・安全・安心・良食味の農畜産物加工品開発の推進

・都市住民への特産品のＰＲ及び販売推進

・チーズ、肉製品等のブランド化

・高付加価値作物の新規導入

②生産性の高い土地基盤の整備

・生産基盤の整備

・農用地の利用集積

③経営感覚に優れた担い手の育成

④環境に優しい農業の展開

・クリーン農業の推進

・家畜ふん尿処理の徹底

Ｂ．農用地の利用集積を図り、規模拡大を目指す一方、特産品の開発やクリーン農業の推進を図るには、農業者の労働負担の軽減とコストの低減を図る必要がある。また、これらのゆとりある酪農・畜産経営の実現により深刻な担い手不足を解消し、新規就農者を増やしていくことも大きな課題である。

①農業者の労働負担の軽減

②労働の省力化とコストの低減

③新規就農者への支援（確保）措置

④新規就農者受け入れ体制整備

Ｃ．札内来馬の地の利を活かし、地域の農畜産物の販売促進、新規就農者の確保等地域農業の課題を実現する上で、都市との交流の促進は重要である。また、都市との交流を通じ、地域住民同士の交流も活発化し、地域全体が活性化してくる。その意味でも都市との交流の促進は地域の大きな課題である。

①都市住民と地域住民が恒常的に交流できる拠点づくり
②札内台地のロケーションを活かした整備
③農業体験の可能な施設の整備
④有数の観光地「登別温泉」との連携

Ｄ．都市との交流を促進していく上で、美しい農村環境づくりは欠かせない課題である。自然と調和した美しい牧歌的な景観を地域ぐるみで創り出してこそ、多くの都市住民は惹かれる。また、住んでいる住民にも自信と誇りを持つことができ、定住の促進にもつながるものである。

①家畜糞尿の適正な処理
②排水路・道路・下水道等の環境基盤整備
③地域の環境美化活動の推進
④美しい自然環境の保全
⑤遊休地の有効利用

【重点課題】

上記の課題の内、登別市において特に重点的に解決すべき課題をまとめると以下の４項目となる。

Ａ．高付加価値農業の展開による農業所得の向上
Ｂ．ゆとりある酪農・畜産経営の確立による新規就農者の確保
Ｃ．地域資源を有効利用した、都市と農村との交流推進による地域の活性化
Ｄ．美しい農村環境づくり

農村振興の問題点

【生 産】

① 乳価の低迷、農畜産物輸入の自由化、国内における産地間競争の高まり、狂牛病の問題等状況は厳しく、農業所得が低迷している。
② 地域の要望もあり、チーズ、ソーセージなど加工品製造に取り組んでいるが、商品化にこぎつけたばかりである。
③ 酪農・畜産以外の作物は土壌と気象条件から難しく飼料作物以外の作目については、試験栽培等の実績はない。現時点でいろいろな作目についての栽培の可能性を新たに研究したことはない。
④ 農地は丘陵地にあり、夏から秋の豪雨をたびたび受けているが、排水路や道路等の基盤整備が立ち遅れ、農地浸食などの被害も起きている。
⑤ 規模拡大を目指す意欲有る農家は居るが、農地の流動化が進まず、効率の良い酪農経営ができない。
⑥ 自らの農業経営を見直し、効率的で安定的な農業経営を意識的に図ろうとする農業が少ない。
⑦ 農業者の高齢化と担い手不足が深刻である。
⑧ 新規就農者の獲得や受入れ体制が十分に確立されていない。
⑨ 規模拡大、家畜の糞尿処理、トレーサビリティーの徹底等やるべき作業が多くなっているが、担い手不足で労働時間にゆとりがなくなっている。
⑩ 狂牛病問題、肉の偽造ラベル問題等が相次いで発生し、、安全・安心・高品質な農畜産物の生産が消費者から求められている。

【販売・流通】

① 札内高原館で生乳・肉の加工品研究開発を行っているが、市場にはまだ本格的に出されていない。
② 国際的観光地「登別温泉」が至近にあり、ここには多くの観光客が訪れているが、販売面での関わりは弱く活用できていない。

【観光・交流・地域づくり】

① 地域内外の住民とも、登別温泉に訪れる観光客を主体とした都市住民との積極的な交流を望んでいるが、恒常的に交流できる場がない。
② 既設の市民農園はほ場が主体で、都市住民が快適に利用できる便所や休憩広場等の施設は未整備で不便である。
③ 自然に囲まれた草地、美しい景観、すばらしい眺望点と豊かな地域資源を擁しているが、活用されていない。

【農村生活環境】

① 排水路や道路、下水道などの身近な生活環境に係わる基盤の整備が未だ立ち遅れている。
② 家畜ふん尿処理の施設が未整備の所がある。
③ 景観の美しい所であるが、林地や道路際、農家の庭先など必ずしも手入れは行き届いていない。
④ 美しい農村環境を活かした遊休地の有効活用策が望まれている。

農村振興の課題

農業分野では、農業所得向上、高齢化と後継者不足、労働力不足の解消が大きな課題である。これを解決するには、地場産品に付加価値を持たした特産品の開発を進め、これらの製品をブランドとして確立し、これらの加工品製造も含めた地域農業の振興を力強く進めていく必要がある。
①地域の特産品の開発
・安全・安心・良食味の農畜産物加工品開発の推進
・都市住民への特産品のＰＲ
・チーズ、肉製品等のブランド化
・高付加価値作物の新規導入
②生産性の高い土地基盤の整備
・生産基盤の整備
・農用地の利用集積
③経営感覚に優れた担い手の育成
④環境に優しい農業の展開
・クリーン農業の推進
・家畜ふん尿処理の徹底

農用地の利用集積を図り、規模拡大を目指す一方、特産品の開発やクリーン農業の推進を図るには、農業者の労働負担の軽減とコストの低減を図る必要がある。また、これらのゆとりある酪農・畜産経営の実現により深刻な担い手不足を解消し、新規就農者を増やしていくことも大きな課題である。
①農業者の労働負担の軽減
②労働の省力化とコストの低減
③新規就農者への支援（確保）措置
④新規就農者受入れ体制整備

札内来馬の地の利を活かし、地域の農畜産物の販売促進、新規就農者の確保等地域農業の課題を実現する上で、都市との交流の促進は重要である。また、都市との交流を通じ、地域住民同士の交流も活発化し、地域全体が活性化してくる。その意味でも都市との交流の促進は地域の大きな課題である。
①都市住民と地域住民が恒常的に交流できる拠点づくり
②札内台地のロケーションを生かした整備
③農業体験の可能な施設の整備
④有数の観光地「登別温泉」との連携

都市との交流を促進していく上で、美しい農村環境づくりは欠かせない課題である。自然と調和した美しい牧歌的な景観を地域ぐるみで創り出してこそ、多くの都市住民は惹かれる。また、住んでいる住民にも自信と誇りを持つことができ、定住の促進にもつながるものである。
①家畜ふん尿の適正な処理
②排水路・道路・下水道等の環境基盤整備
③地域の環境美化活動の推進
④美しい自然環境の保全
⑤遊休地の有効利用

農村振興の重点課題

高付加価値農業の展開による農業所得の向上

ゆとりある酪農・畜産経営の確立による新規就農者の確保

地域資源を有効利用した、都市と農村との交流推進による地域の活性化

美しい農村環境づくり

農村振興のテーマ

高付加価値農業の展開

ゆとりある酪農・畜産経営

都市との交流促進

美しい農村環境づくり

２．地域の将来像

(1) 地域の将来の望ましい姿

２.地域の将来像

(1)地域の将来の望ましい姿

地　域　の　将　来　像
【キャッチフレーズ】 **希望・やすらぎ 活気あふれる 高原台地** 【理　念】 自然と調和のとれた住空間、活気あふれる農業、都市住民をあたたかく迎え入れるホスピタリティ、個性あふれる豊かな人間性。地域の人一人ひとりの価値観とライフスタイルが尊重され、豊かさと充実した生活が実現できる。ここには各地から人が集い、情報が集まる。そして、人が、モノが、情報が行き交い、活発な交流が生み出すエネルギーが高原台地にみなぎり、人々のぬくもりとふれあいを育む。

⇧

４　つ　の　テ　ー　マ			
高付加価値 農業の展開	**ゆとりある 酪農・畜産経営**	**都市との 交流促進**	**美しい 農村環境 づくり**

地域の将来像を実現するためには、「そこに住む人々が安心して暮らせること」「未来に向かって希望がもてること」「自分の能力を活かした前向きな暮らしや生活ができること」が必要であり、そのためには農山村に「やすらぎ」と「くつろぎ」を求めて訪れる都市住民や地域住民が、心地よく感じる空間の創造が不可欠である。

活力のある登別市農業を実現するために、農業が職業として選択しうる魅力とやりがいのあるものとなるよう、経済的にも時間的にもゆとりのある農業経営の仕組みを築く。そのために、農業と登別市の基幹産業である観光産業の潜在能力活用とあわせて、産業振興の面から地域の特徴を活かした「食」「泊まる」「遊」プラス「いやす」「トキメキ・感動」の要素を組み込んだ、多産業連携型農業の展開を、農畜産物加工への取組み、都市との交流により実現し、「登別型農業」といえるような活力ある農業を推進する。

その中で、農業者・地域住民・行政が一体となって、豊かな自然と調和した美しい農村、誰もが住みたくなる活気のある農村を実現する。

２．地域の将来像

(2) 地域振興のテーマ

(2)地域振興のテーマ

テーマ１：高付加価値農業の展開

従来の農業生産においては、生産することに重点がおかれ「商品を作る」という認識が薄かったことから、今後は、農畜産物に付加価値を持たせた畜産加工品の製品化を進め、消費者ニーズと市場の動向把握など情報収集を不断に行い販路を確立する。市内で生産される農畜産物等の加工・研究を継続的にすすめ、札内高原館でのソーセージなど畜産加工と、地元で生産される高品質な生乳を活用したチーズやアイスクリームを製品として確立する。とりわけ、生乳は乳質・乳成分が高いことからチーズやアイスクリーム、牛乳など乳製品の開発を進める。また、これらの製品が新鮮で美味しく、安全で安心な「商品」として認知されるようこだわりをもって製造し、安定供給に努める。登別ブランドと称されるよう品質の保持と安定的な生産体制を築き、これらの商品を、一大消費地である登別温泉への供給について関係機関・団体等と協議するとともに、当面、酪農体験館（直売所併設）やアンテナショップで販売し、販路確立のための市場調査と消費動向の把握に努める。

この取り組みの中で、農業と登別市の基幹産業である観光と連携した観光型農業の育成を図るとともに、異業種の農業参入を視野に入れた他産業連携型農業の展開について農業関係団体と商工会議所や観光協会、漁業協同組合などと協議を進める。札内高原館での農畜産物加工研究は、登別ブランドとしての商品化を目標に進んでおり、起業化を図るべく関係者と調整段階にある。また、当面は農作業の受託組織（コントラクター）設立を目指し雇用の場の確保に努める。

さらには、登別の気候や土壌に適し、市場ニーズにマッチした薬草や野菜などの新規作物の試験栽培を行い、新たな作物としての普及、定着を進める。

牛海綿状脳症（ＢＳＥ）や口蹄疫、食品の偽装問題など農業を取り巻く情勢が依然厳しい中で、消費者が農業に求めるものは、食料に対する健康・安全志向の高まりから、食品の品質向上や安全性の確保、規格・表示の整備など多様化している。地域の条件や特性を考慮し、無農薬・有機質肥料による環境負荷の軽減に配慮した酪農・畜産経営を、今後も全農家で追及していく。

あわせて、畜産環境問題に適切に対応し、飼料基盤に立脚した土地利用型酪農推進と草地更新、農道・排水路整備等生産基盤の整備を進め、遊休農地や耕作放棄地の有効利用のため、担い手農業者への農用地利用集積を促進する。

テーマ２：ゆとりある酪農・畜産経営の確立

農業が魅力ある産業として発展していくためには、地域農業者の自主性と創意工夫を基本としながら、多様でゆとりある農業経営を育成する必要がある。このために、地域の自主的・主体的な取組を支援するとともに、地域の立地条件や営農実態等に応じた、収益性の高い作物の導入や畜産物に付加価値を持たせた畜産加工品の製品化など、経営の複合化や多角化を推進し農業経営の体質強化を図る。

また、地域農業を維持・継続するため、担い手農業者への支援のほか、集落を基本単位とした営農システムや農作業受託組織(コントラクター)の構築地域の実情に応じた多様な担い手育成と、国際感覚などの幅広い知識と社会や経済の変化に適切に対応できる高度な技術、経営管理能力を身につけた農業者を確保しなければならない。このために、登別農業の主体を担っている若手農業者を強力にバックアップしていくことはもちろんのこと、新規就農者の受入体制を早急に確立する。

具体的には、ゆとりある営農実現のために、コントラクターによる農作業受委託や農作業用機械の共同購入、共同利用のほかＴＭＲセンターでの飼料混合調整による粗飼料の供給体制、飼養管理労働の軽減につながる乳牛育成牧場の整備などについて農業者と農業協同組合等関係機関と協議を進める。

新規学卒者・中高齢者・Ｕターン者の就農、農家子弟以外からの就農など就農ルートの多様化や経営管理技術の高度化に対応するために、乳用牛育成牧場を実践的経営体験研修施設として位置づけし、農業研修生を受入のための体制整備を進める。また、経営を中止する農家から新規就農者へ経営継承する場合には、経営改善支援センターや農業協同組合が、新規就農者に対し経営・技術指導等を行う。地域農業の中核となるリーダーの育成を図るため、担い手農家、営農組織等が研修会や講習会へ参加できる体制を整える。さらには、農業の担い手が技術の修得・研鑽を積むために先進地や先進農家、機械研修など中長期の研修を受ける者に対する助成など、今後とも農業者が農業に希望と誇りを持って取り組めるよう支援対策の充実を図る。

テーマ３：都市との交流促進

札内高原館周辺を、登別温泉を訪れる観光客等都市住民に加工体験や動物とのふれあい体験、農業まつりなどが行える場として整備を進め、都市住民との交流拠点として位置づける。また、地域の自然をあるがままの状態で活用するホーストレッキングコースは、休憩所やトイレなど必要最低限の施設のみ整備し、登別らしい景観が感じられるコースのあり方について農業者や関係機関と検討を進める。

登別観光が一過型から滞在型へ移行するために、国立公園としての登別温泉やテーマパークの他に、観光ニーズが高い体験型観光と食へのこだわり、健康志向、自然とのふれあいなどに適合した新たな観光への脱皮が必要とされている。登別温泉を訪れる観光客が農村地域に何を求めて、何に期待するのか具体的なニーズの把握、観光協会や観光エージェントとの調整・協議を進める。

具体的な地域のとりくみを以下のように行う。

①　農産物加工、直売、農家レストラン、農家民宿等の推進方策

安全・安心・高品質な畜産物の生産と札内高原館での畜産加工研究活動を通じて新たな酪農・畜産製品の開発などを推進する。また販売については直売所やアンテナショップの開設、インターネットを通じた受注など販売ネットワークを構築する。さらには、地元でとれた新鮮な農産物を地域で提供するため既存農家レストランとの連携を強める。

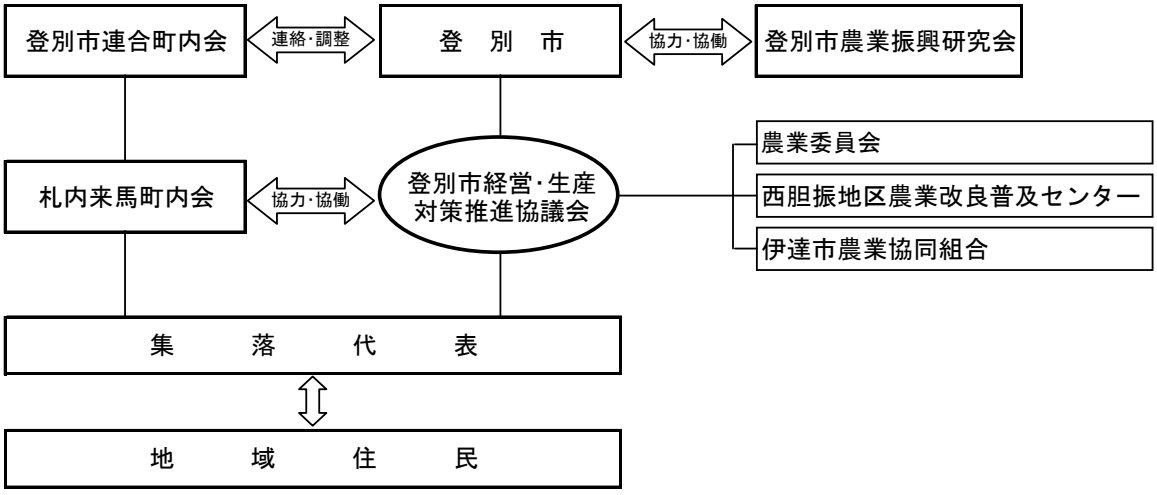
また、登別の雄大な大地や自然環境等の特色を活かしたグリーンツーリズムの推進を図るとともに、市民農園や農山村広場などを併設したふれあい牧場の整備に努める。

② 目標達成のための農家経営管理

農業者の都市住民受入によるグリーンツーリズム的農業は、本業である畜産経営の安定の上に成り立つものであり、現状の経営の効率化を進めるべく農業協同組合や農業改良普及センターとともに営農に関する相談・指導を促進する。なお、体験型農業に取り組もうとする農家に対していては、過剰な投資を避け集落単位などでそれぞれの農家で役割分担した形での共同取組について検討する。

③ 推進体制

登別市の農林業等と基幹産業である観光産業及び関連産業の振興とさらなる活性化に取り組むための推進体制を整備するため、登別市、農業委員会、農業改良普及センター、農業協同組合、漁業協同組合、観光協会、商工会等関係団体間の密接な協力体制を確立するとともに、地域の代表者及び登別市等関係団体で構成する「登別市経営・生産対策推進協議会」において、地域活性化のための諸方策の検討を行う。



テーマ４：美しい農村環境づくり

都市住民を受け入れるということは交流人口の拡大であり、このことにより地域の所得向上が期待できる。都市住民は農村地域の日常生活の場（家畜の世話や田や畑などでの農作業）へ、自然とのふれあいを求めてやって来る。都市住民を受け入れるためには環境美化活動や自然保護活動が必要であり、地域を美しく、あるがままの豊かな自然を都市住民が享受することで高い評価を得ることとなり、地域のイメージアップにつながる。農業者サイドの受け入れ態勢と農家周辺環境美化、広大な草地と放牧されている乳牛の牧歌的な風景などのどかな農村空間の創造に努める。

この取り組みを継続する中で、良好な住環境を整備し、周辺住民や都市住民を招き入れる優良田園住宅（農園付き田園住宅）の設置もめざしていく。

２．地域の将来像

(3) 地域振興の目標

(3) 地域振興の目標

１．高付加価値農業の展開

①札内高原館の改修
②酪農体験館の設置
③市民農園の活用
【新規作物の導入】⇒ ヤーコン、ダッタンソバ、ハーブの作付化
④規模拡大
・乳用牛　{現況　販売額　298百万円、飼養頭数　835頭}
⇓
{10年後　販売額　373百万円、飼養頭数　919頭}
・肉　牛　{現況　販売額　117百万円、飼養頭数 1,159頭}
⇓
{10年後　販売額　144百万円、飼養頭数 1,272頭}
⑤生産基盤整備
・農 道 整 備　{現況 31km/43km(72%) ⇒ 10年後 36km/43km(84%)}
・用排水整備　{現況 56km/69km(81%) ⇒ 10年後 61km/69km(88%)}
⑥認定農業者の拡大　{現況 0人 ⇒ 10年後 20 人 }

２．ゆとりある酪農・畜産経営

①酪農ヘルパー利用組織の確立
②コントラクター組織の確立
③乳用牛育成牧場の設置
④ＴＭＲセンター設置
⑤市営牧場の活用　{現況　8戸/26戸(31%)　⇒ 10年後 18戸/28戸(64%)}
⑥加工品の販売拡大　⇒ 10年後 販売額5,000万円
⑦新規参入者の獲得{現況 0人　⇒ 10年後 10 人 }
(畜産 5人、畑作 5人)
⑧酪農体験館の設置
⑨乳用牛育成牧場の設置

３．都市との交流促進

①交流人口の拡大　{現況　1,400 人　⇒ 10年後 3,000人 }
②市民農園の設置
③交流拠点(札内園地)の整備
④ホーストレッキング施設の設置
⑤イベントの定着・拡大

４．美しい農村環境づくり

①牧場看板の設置　⇒ 10年後 25戸／31戸(80%)
②沿道花壇の設置
③合併浄化槽の設置 {現況 0戸/44戸(0%)　⇒ 10年後 30戸/44戸(70%)}
④家畜ふん尿処理整備
{現況 9戸/26 戸(35%)　⇒ 10年後 28戸/28戸(100%)}

３．地域振興対策基本方針

(1) 将来像の実現のために必要な施策

３.地域振興対策の基本方針

(1)将来像の実現のために必要な施策

ここでは、将来像の実現に向けた分野(テーマ)において、今後、登別市が基本とする取り組みについて、次のような施策を実施する。

１.高付加価値農業の展開

＊札内高原館整備(牛乳・チーズ・ソーセージなどの加工研究)
＊酪農体験館整備(直売所・レストラン)
＊市民農園の活用(ヤーコン・ダッタンそば・ハーブ試験栽培)
＊生産基盤整備の推進：草地の更新・農道・排水路・暗渠等整備
＊農用地の利用集積
＊認定農業者の拡大

２.ゆとりある酪農・畜産経営

＊機械の共同利用
＊酪農ヘルパー利用組合の拡充
＊コントラクター組織の確立
＊乳用牛育成牧場の整備
＊ＴＭＲセンター設置
＊経営改善支援センター等による経営・技術指導
＊新規就農者への就農計画及び支援資金貸付等のバックアップ
＊酪農体験館の設置
＊市営牧場の整備

３.都市との交流促進

＊札内高原館周辺の整備
(酪農体験館･動物ふれあい広場･イベント広場･駐車場等)
＊市民農園の拡充
＊ホーストレッキング施設整備
＊農村公園整備

４.美しい農村環境づくり

＊札内台地の修景：牧柵の統一、沿道花壇・植樹、美しい牧場看板の設置等
＊家畜ふん尿処理施設整備：個別完結型処理を主に整備(H16年までに着手)
＊下水道・浄化槽の整備
＊森林の保護・育成等自然環境の保全と農業生産活動との調和
＊優良田園住宅(農園付き田園住宅)整備

中山間地域総合整備事業（登別地区）予定

区　　分	工　　種	地 区	事　業　量	事業費
農業生産基盤整備	農道整備	札内	１条　L=1,200m	200,000千円
	小　計		１条　L=1,200m	200,000千円
	農地保全	札内	1カ所　A= 2.0ha	7,400千円
		来馬	1カ所　A=11.6ha	43,000千円
		来馬	1カ所　A= 2.6ha	9,600千円
	小　計		3カ所　A=16.2ha	60,000千円
小　　計				260,000千円
農村生活環境基盤整備	農村公園	札内	1カ所 A=10,000㎡	200,000千円
	活性化施設	札内	1棟　A=　400㎡	120,000千円
小　　計				320,000千円
交流基盤整備	用地整備	札内	1カ所 A=15,000㎡	70,000千円
小　　計				70,000千円
合　　計				650,000千円

関係省庁の補助事業

関係省庁	施工年度	事　　業　　名	補助率	事業費（千円）	整 備 内 容
農水省	H16～H19	新山村振興等農林漁業特別対策事業	50	330,000	生産基盤整備 酪農体験館 札内高原館 市民農園 札内高原館周辺整備 農村公園 景観、自然環境保全整備
	H6～	農業経営基盤強化促進対策事業	50		農用地利用集積
	H16～H19	資源リサイクル畜産環境整備事業	75	730,000	家畜ふん尿処理施設
	H15～	保安林整備事業	100		保安林整備

連携が必要となる施策

本地域においては、将来像の実現を図るため、連携による農村整備を目指すに当り、交通条件や地域資源の分布状況などを踏まえた構想は以下のように考えられる。

他府省との連携が期待される事項について検討する。

テーマ１： 高付加価値農業の展開

施　策　名	他府省間等の連携
１．札内高原館整備 （牛乳･チーズ･ソーセージなどの加工研究）	農林水産省
２．酪農体験館整備（直売所･レストラン）	農林水産省
３．市民農園の活用 （ヤーコン･ダッタンそば･ハーブ試験栽培）	市
４.生産基盤整備の推進	農林水産省
５．農用地の利用集積	農林水産省
６．認定農業者の拡大	市

テーマ２： ゆとりある酪農・畜産経営

施　策　名	他府省間等の連携
１．機械の共同利用	市
２．酪農ヘルパー利用組合の設立	農林水産省
３．コントラクター組織の確立	農林水産省、厚生労働省、国土交通省
４．乳用牛育成牧場の整備	農林水産省
５．ＴＭＲセンター設置	農林水産省
６．経営改善センター等による経営･技術指導	市
７．就農計画及び支援資金貸付等のバックアップ	市
８．酪農体験館の設置	農林水産省
９．市営牧場の整備	農林水産省

テーマ３： 都市との交流促進

施　策　名	他府省間等の連携
１．札内高原館周辺の整備（酪農体験館･動物ふれあい広場･イベント広場･駐車場等）	農林水産省、国土交通省
２．市民農園の拡充	農林水産省
３．ホーストレッキング施設整備	農林水産省
４．農村公園整備	農林水産省

テーマ４： 美しい農村環境づくり

施　　策　　名	他 府 省 間 等 の 連 携
１．札内台地の修景	農林水産省
２．家畜ふん尿処理施設整備	農林水産省
３．下水道・浄化槽の整備	農林水産省、厚生労働省
４．森林の保護・育成等自然環境の保全と農業試算活動との調和	農林水産省
５．優良田園住宅(農園付き田園住宅)整備	農林水産省、国土交通省

３．地域振興対策の基本方針

(2) 推進プログラム

(2) 推進プログラム

本地域における将来像の実現に向けた４つのテーマを基本とした取り組みについて施策を実施する。

１. 高付加価値農業の展開

主要施策・内容	スケジュール							
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21～
１．札内高原館整備（牛乳・チーズ・ソーセージなどの加工研究）								
◆ 新山振事業								
◆ 加工研究事業								
２． 酪農体験館整備（直売所・レストラン）								
◆新山振事業								
３．市民農園の活用（ヤーコン・ダッタンそば・ハーブ試験栽培）								
◆ 市民農園活用事業								
４．生産基盤整備の推進								
◆ 中山間事業（農道・農地保全）								
◆ 生産振興総合対策事業								
◆ 新山振事業								
５．農用地の利用集積								
◆ 農地保有合理化促進事業								
◆ 農業経営基盤強化促進対策事業								
６．認定農業者の拡大								
◆ 認定農業者拡大事業								

２.ゆとりある酪農・畜産経営

主要施策・内容	スケジュール							
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21～
１．機械の共同利用								
◆ 機械共同利用促進事業								
２．酪農ヘルパー利用組合の設立								
◆ 生産振興総合対策事業								
３．コントラクター組織の確立								
◆ 生産振興総合対策事業								
◆ 認定農業者連携事業体育成事業								
４．乳用牛育成牧場の整備								
◆ 地域畜産総合支援体制整備事業								
◆ 畜産環境総合整備事業								
◆ 道営草地畜産活性化整備事業								
５．ＴＭＲセンター設置								
◆ 生産振興総合対策事業								
◆ 牛用飼料適正給与推進費								
６．経営改善支援センター等による経営・技術指導								
◆ 経営技術指導事業								
７．就農計画及び支援資金貸付等のバックアップ								
◆ 担い手育成センターとの連携								
８．酪農体験館の設置								
◆新山振事業								
９．市営牧場の整備								
◆ 畜産環境総合整備事業								
◆ 自給飼料促進事業費								

３. 都市との交流促進

主 要 施 策 ・ 内 容	ス ケ ジ ュ ー ル							
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21～
１．札内高原館周辺の整備 （酪農体験館･動物ふれあい広場･ イベント広場･駐車場等）								
◆ 中山間事業（交流施設基盤整備）								
◆ 新山振事業								
２．市民農園の拡充								
◆ 中山間事業（市民農園等）								
◆ 新山振事業								
３．ホーストレッキング施設整備								
◆ やすらぎの交流施設整備事業								
◆ ふれあい交流空間整備事業								
４．農村公園整備								
◆ 中山間事業（農村公園）								
◆ 新山振事業								

４. 美しい農村環境づくり

主 要 施 策 ・ 内 容	ス ケ ジ ュ ー ル							
	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21～
１．札内台地の修景								
◆新山振興事業								
２．家畜ふん尿処理施設整備								
◆ 生産振興総合対策事業								
◆ 畜産環境総合整備事業								
３．下水道・浄化槽の整備								
◆ 特別地域生活排水処理事業								
４．森林の保護・育成等自然環境の 保全と農業生産活動との調和								
◆ 保安林整備事業								
５．優良田園住宅（農園付き田園住宅） 整備								
◆ 田園居住区整備事業								
◆ 農村振興総合整備事業								

３．地域振興対策の基本方針

(3) 住民参加の方針

(3)住民参加方針

（ｉ）住民参加の基本的な考え方

①現状

登別市では、日常生活に密着するコミュニティ活動は、市内９９の町内会により行われている。これらの町内会は各々１１の各地区連合会に属し（４町内会は未加入）、更にこれらの連絡調整を図る登別市連合町内会が設置されている。地域が直面する身近な生活上の諸問題はこの町内会を単位として、行政側との連絡・調整・協議が行われている。札内・来馬の農村地域もこの町内会活動が身近な生活上の諸問題を解決していく場となっている。

一方、農村部としての札内・来馬地域の活性化に関わる諸問題は「登別市経営・生産対策推進会議」で話し合われ、決められている。

②課題

札内･来馬地域では､過疎化や高齢化の進展に伴い住民活動の担い手も高齢化し固定化しており､新たな担い手の発掘と育成が必要となっている。特に、若い世代の担い手の育成が活力のある地域づくりの鍵を握っており、協議会や研究会などの参加を通じ､地域づくりの主役としての自覚と地域づくりのおもしろさを実感してもらう必要があり､そのためのバックアップを行政側もできる限り行っていく必要がある。

③生活圏設定の考え方

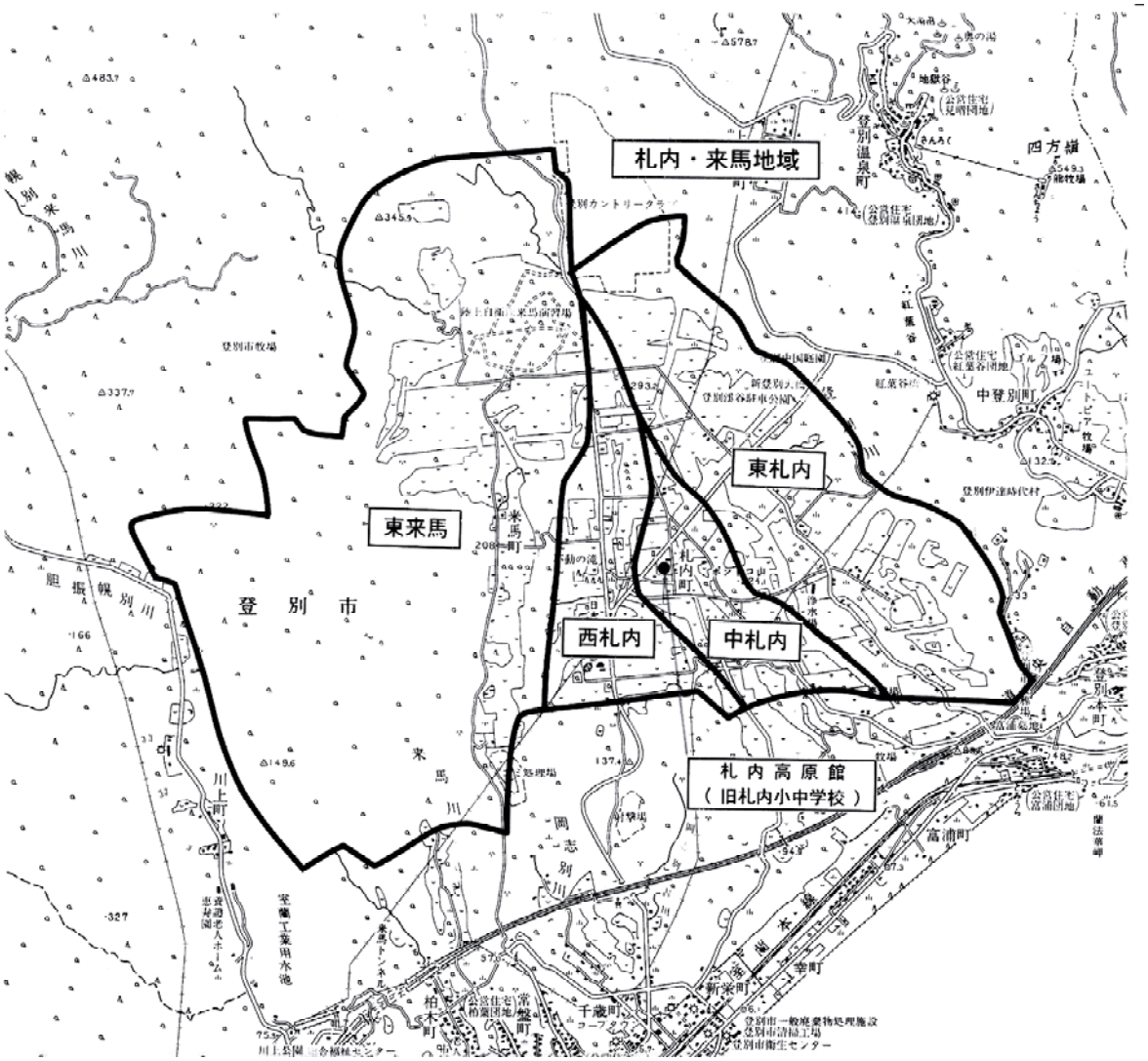
登別農業は、戦後、天候及び土壌等の環境条件により酪農・畜産農業に特化し、比較的恵まれた条件下にあった平地部の農用地も、近年の市街地発展にともなって、離農等が相次ぎ、その生産基盤は、札内・来馬集落を主体にした丘陵地帯に移行した。また、経営内容も畑作農業から、酪農、肉牛を核とする有畜農業に転換し現在に至っている。このように､札内･来馬地域は､酪農・畜産が営まれている登別市の中心的な農業地帯となっている。行政の面やＪＡとしてのとらえ方も、札内・来馬地域を一体の地域として位置づけており、今は廃校となったが､かっての札内小学校の学校区の設定もこの区分に則っていた。また､日常的なコミュニティー活動や町内会活動も札内の｢老人憩いの家｣を拠点として行われている。

これらを踏まえ、登別市ではこの札内･来馬の地域区分を生活圏として捉え､この生活圏に含まれる個々の集落を基本とする新たな体制づくりをめざす。

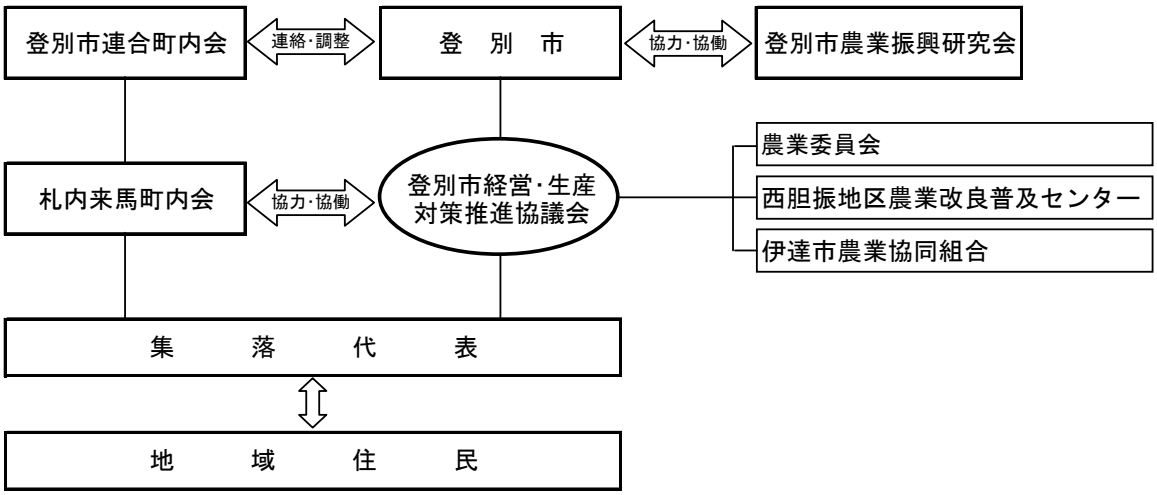
登別市生活圏の状況

生活圏名	集落数	戸　　数	
		平成　７　年	平成１２年
札内･来馬地域	4	６１	４０

登別市生活圏区分図



（ⅱ）住民組織の概要と役割



主　な　役　割　分　担	
登別市	◎ 年間活動計画の作成 ・ 新規事業の取組検討 ・ 経営改善センターの指導 ◎ 農業者の組織化 ・ 地域農業支援システムの検討 ・ コントラクター設立に向けた検討 ◎ 畜産加工への取組支援 ・ 畜産物の製品化への支援 ◎ 関係機関団体との連絡調整 ・ 認定農業者への助言・指導・支援 ・ 認定農業者等の意見・要望把握 ・ 経営改善計画の作成・指導 ・ 農業経営分析と経営改善指導
農業委員会	◎ 指導・相談等支援 ・ 家族経営協定の推進 ・ 農業経営の法人化への支援 ・ 新規就農者への助言指導 ・ 農地流動化の促進 ・ 農用地利用集積の促進 ・ 農地銀行活動 ◎ 関係機関団体との連絡調整 ・ 認定農業者への助言・指導・支援 ・ 認定農業者等の意見・要望把握
普及センター	◎ 指導・相談等支援 ・ 新技術の導入・指導 ・ 農業経営分析 ・ コントラクター設立に向けた検討 ・ 畜産加工への助言・指導 ◎ 関係機関団体との連絡調整 ・ 経営改善計画の作成・指導 ・ 農業経営分析と経営改善指導
ＪＡ	◎ 指導・相談等支援 ・ 農業経営・技術指導 ・ 制度資金等の利用促進 ・ 各種事業の紹介・要望とりまとめ ・ 新規高収益作物の導入
農業振興研究会	・ 遊休農地解消のための農地流動化の研究 ・ 市民農園等の研究 ・ 生産物の低コスト化のための研究指導 ・ 農畜産物の加工研究及び消費者ニーズの調査、販路の研究、起業家の研究
札内･来馬町内会	・ 地域の身近な環境整備等の活動推進 ・ 身近な生活環境に関わる要望とりまとめ
連合町内会	・ 登別市全域の町内会との調整・連絡・市との交渉等

（ⅲ）地域コミュニティの活動方針

①活動の目標

①活動の目標

地域づくりの主役は地域住民である。「登別市経営・生産対策推進会議」を主体として地域づくりの具体的な施策が話し合われ、決定される。ここには市の行政や地域の主産業である農業関係者が参画している。地域住民ができる限り地域の情報を共有しあい、話し合いを重ね、対策をたて、担うべき役割を認識して、この会議にそれらの意見を反映し、集約するようにして地域づくりを進めることが重要である。

地域コミニティの目標

地域のことをよく知る

地域づくりを進める上では地域のことをよく知る必要があります、市やＪＡでは広報紙やインターネットによる情報の発信を行っていますが、積極的にそれらの情報を活用するとともに、これらの情報を地域ぐるみで共有する必要があります。

地域づくりに積極的に参加する

農業振興研究会や懇談会、学習講座などさまざまなまちづくりへの参加の機会があります。身近には町内会やボランティアなどさまざまな活動に積極的に参加することです。

自分たちの地域は自分たちの手で

地域住民民１人ひとりが主役になって、自分たちが暮らしやすい地域を自分たちの手で作っていくことが何よりも肝要です。

具体策

◆情報の共有化によるまちづくり参加機会の充実

地域づくりについて、多様な媒体を用いたわかりやすい情報をできる限り公開し情報の共有に努める。また、懇談会、協議会、研究会等地域づくりを地域住民が主体となって行える機会を積極的に創る。

◆地域づくり活動の担い手の育成

既に、高原館での活動において実績が有りますが、地域づくりについて学ぶ講座の開設や自主研究組織の育成に努め、人づくり振興基金運用などにより、自主活動グループとリーダーの育成に努める。特に、若い人や女性の参画を促し、担い手として育成していくことが重要であると思われます。

◆住民自治活動促進のための環境整備と支援

さまざまな交流機会の場を積極的に設け、そのための広報や体制づくり等の支援を行う。これら住民活動の拠点となる既存地区施設の整備を計画的に進める。これからは、都市住民との交流を促進するために、地域ぐるみの取り組みとなるよう支援していく必要があります。

②具体的な方策

まちづくりの具体的な施策の中で地域の人たちが参加する具体的な方策を以下のように考えます。

テーマ１： 高付加価値農業の展開

施　　策	参　　加　　者	参 加 手 法
1. 札内高原館整備 (牛乳･チーズ･ソーセージなどの加工研究) ［新山村振興等農林漁業特別対策事業］	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,登別市農業振興研究会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,登別市農業振興研究会 利活用 ⇒ 登別市農業振興研究会,農業者,地域住民,都市住民	・農産物供給 ・加工研究への参加 ・加工体験 ・消費者との交流
2. 酪農体験館整備 (直売所・レストラン) ［新山村振興等農林漁業特別対策事業］ ［中山間総合整備事業］	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,登別市農業振興研究会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会登別市農業振興研究会 利活用 ⇒ 地域住民,都市住民	・農産物供給 ・販売促進 ・加工品啓蒙活動
3. 市民農園の活用 (ヤーコン・ダッタンそば・ハーブ試験栽培)	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,地域住民 実　施 ⇒ 市,地域住民	・作付指導 ・作付体験
4. 生産基盤整備の推進 ［中山間総合整備事業(農道･農地保全)］	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,農業者 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,農業者 利活用 ⇒ 農業者	・計画参加 ・清掃活動 ・維持管理活動
5. 農用地の利用集積	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,農業者 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,農業者	・規模拡大意向農家の把握 ・農用地の提供農家との調整 ・農業委員会を中心とした農地銀行活動
6. 認定農家の拡大	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 市,伊達市農業協同組合	・経営改善計画の作成支援 ・農業経営に関する相談業務

テーマ２： ゆとりある酪農・畜産経営

施　　策	参　　加　　者	参 加 手 法
1. 機械の共同利用	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・機械利用組合設立に向けた協議 ・機械利用組合への参加と機械の共同管理
2　酪農ヘルパー利用組合の設立	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・酪農ヘルパー利用総回数の調査 ・酪農ヘルパーの確保、参加農家の把握
3. コントラクター組織の確立	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・受託農作業の種類と規模について調査 ・コントラクター参加農家の把握
4. 乳用牛育成牧場の整備	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・農業経営の効率化についての話し合い ・牧場への預託頭数の把握
5. ＴＭＲセンター設置	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・農業経営の効率化についての話し合い ・農家に合った飼料混合についての研究
6. 経営改善センター等による経営・技術指導	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・所得向上につながる農業の経営指導 ・効率的な経営のための分析と検討
7. 新規就農者への資金援助等の全面バックアップ	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・技術的指導 ・新規就農者の受け入れ
8. 酪農体験館の設置	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会, 登別市農業振興研究会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会, 登別市農業振興研究会 利活用 ⇒ 地域住民,都市住民	・農産物供給 ・加工研究への参加 ・加工体験 ・消費者との交流
9. 市営牧場の整備	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 利活用 ⇒ 農業者	・維持管理活動への参加 ・牧場の利用率向上のための活動

テーマ３： 都市との交流促進

施　　策	参　　加　　者	参 加 手 法
1. 札内高原館周辺の整備 (酪農体験館･動物ふれあい広場･イベント広場･駐車場等) ［中山間総合整備事業］	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,町内会,地域住民 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,町内会,地域住民 利活用 ⇒ 地域住民,都市住民	・イベント参加 ・維持管理への参加 ・消費者との交流
2. 市民農園の拡充 ［新山村振興等農林漁業特別対策事業］	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,地域住民 利活用 ⇒ 地域住民,都市住民	・作付け指導 ・作付け体験 ・地域特産物確立に向けた試験栽培
3. ホーストレッキング施設整備	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,町内会,地域住民 利活用 ⇒ 都市住民	・ホーストレッキング体験 ・農地の提供
4. 農村公園整備 ［新山村振興等農林漁業特別対策事業］	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,町内会,地域住民 利活用 ⇒ 地域住民,都市住民	・清掃活動 ・地域の美化活動

テーマ４： 美しいの村環境づくり

施　　策	参　　加　　者	参 加 手 法
1. 札内台地の修景	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,町内会,地域住民 実　施 ⇒ 町内会,地域住民	・清掃活動 ・ボランティア活動
2. 家畜ふん尿処置施設整備	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,農業者 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,農業者 利活用 ⇒ 農業者	・計画参加 ・維持管理
3. 下水道・浄化槽の整備	計　画 ⇒ 地域住民,事業者 実　施 ⇒ 地域住民,事業者 利活用 ⇒ 地域住民	・計画参加 ・施設整備協力 ・維持管理
4. 森林の保護・育成等自然環境の保全と農業生産活動との調和	計　画 ⇒ 市,事業者 実　施 ⇒ 市,事業者	・事業への協力
5. 優良田園住宅(農園付き田園住宅)整備	計　画 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,町内会 実　施 ⇒ 登別市経営生産対策推進協議会,町内会 利活用 ⇒ 地域住民,都市住民	・計画参加 ・土地の提供 ・利活用 ・宣伝普及

３．地域振興対策の基本方針

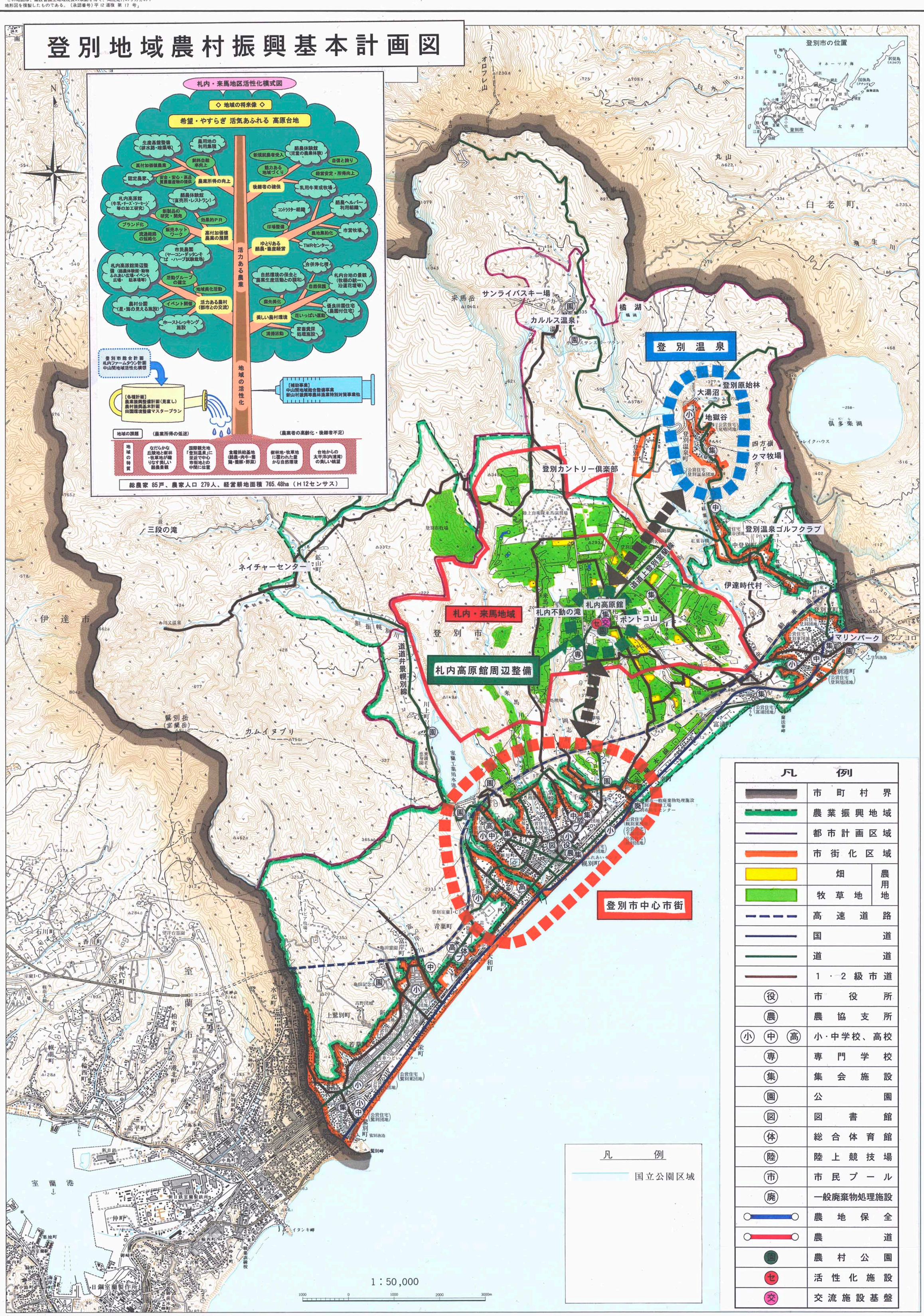
(4) その他の農村の振興に関連する事項

(4)その他農村の振興に関連する事項

４．構想概略図

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１
地形図を複製したものである。（承認番号）平 12 道複 第 17 号」

登別地域農村振興基本計画図



登別市役所

国土地図株式会社 札幌支店
☎ (011)709-5435